

潮来市
障がい福祉に関するアンケート
結果報告書

○● 集計分析結果 ●○

平成29年9月
潮来市

(表紙裏)

目 次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査の概要	1
1-1 調査の目的	1
1-2 調査対象者と回収結果	1
1-3 回答者の基本属性	2
第2節 調査結果の特徴	3
第2章 アンケート結果	9
第1節 障がいの状況について	9
1-1 障がいの種別	9
1-2 障害者手帳所持者の状況	10
1-3 医療機関の受診状況	12
第2節 障害福祉サービスについて	13
2-1 障害福祉サービスの利用状況	13
2-2 障害福祉サービスの満足度	16
第3節 教育や就労、日中の過ごし方について	17
3-1 平日の昼間の過ごし方	17
第4節 外出や社会参加について	21
4-1 ひとりでの外出	21
4-2 外出の頻度と今後の意向	22
4-3 楽しみや生きがい	23
4-4 社会貢献活動に取り組む意向	24
4-5 文化・スポーツ活動への参加	25
第5節 相談・情報提供について	27
5-1 情報の入手先	27
5-2 相談や情報収集する上で困ること	28
第6節 災害対策について	29
6-1 災害時に不安に思うこと	29
6-2 災害時に助けてくれる人	30
6-3 災害に対する日ごろの備え	31
第7節 障害者差別解消法について	32
7-1 障害者差別解消法の認知度	32
7-2 障がいのある人への理解	33
7-3 障がいのある人への差別や偏見	34

第8節 安心して暮らせる社会について.....	36
8-1 現在の暮らしと将来の希望.....	36
8-2 将来の生活の不安.....	37
8-3 成年後見制度の理解と今後の意向.....	38
第9節 潮来市の障がい福祉の取り組みについて.....	40
9-1 障がい福祉の満足度.....	40
資料編.....	45
1 アンケート集計表.....	45
2 自由記述.....	57

第1章 調査の概要

第1節 調査の概要

1-1 調査の目的

この調査は、「障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画」の策定にあたり、障がいのある方の日常生活の状況および障害福祉サービス等の利用状況・利用意向等を把握することにより、今後の施策展開を図るための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査対象者と回収結果

以下の対象者に共通のアンケート票を作成し、郵送配布・回収した。本調査の調査対象及び配付、回収状況は、下表のとおりである。

調 査 名	調 査 対 象	調査対象者	有効回答数
障がい福祉に関するアンケート	身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、指定難病特定医療費受給者証所持者、障害福祉サービス(児童)受給者証所持者	1, 3 2 9 人	8 0 2 人 (60.3%)

●調査期間：平成29年6月26日（月）から平成29年7月10日（月）まで。

◆結果報告書を見る際の注意

- ① 各設問の集計は、すべて単純集計、属性別（フェースシート）クロス集計を行った。
- ② 比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。したがって、合計が100％を上下する場合もある。
- ③ 回答者総数（n）は、100％が何人の回答に相当するかを示す。
- ④ 《複数回答》と記入してあるのは、1回答者が2つ以上の回答をすることができる質問である。このときの回答の計は回答者数（100％）を超える。
- ⑤ 図表および文章中で、選択肢を一部省略、並び替えをしている。

※「障がい」と「障害」の表記について

このアンケートは、障がいの「害」という漢字の表記について、法律等で規定されている名称や引用、施設名等の固有名詞を除き、可能な限りひらがなで表記している。そのため、「がい」と「害」の字が混在している。

1-3 回答者の基本属性

(1) 調査票の記入者

- アンケートの回答者は「本人」が 66.2%、「家族（本人の意向で記入）」が 23.1%である。

○調査票の記入者	人	%
回答者総数	802	(100.0)
本人	531	(66.2)
家族（本人の意向で記入）	185	(23.1)
施設・病院（本人の意向で記入）	31	(3.9)
その他（本人の意向で記入）	4	(0.5)
無回答	51	(6.4)

(2) 性別

- 「女性」が 50.9%で、やや高い割合である。

○性別	人	%
回答者総数	802	(100.0)
男性	371	(46.3)
女性	408	(50.9)
無回答	23	(2.9)

(3) 年齢別

- 「75 歳以上」が 28.8%、「65～74 歳」が 23.7%で、高齢者が約 5 割である。

○年齢別	人	%
回答者総数	802	(100.0)
0～6 歳	11	(1.4)
7～18 歳	21	(2.6)
19～29 歳	48	(6.0)
30～39 歳	48	(6.0)
40～49 歳	65	(8.1)
50～64 歳	165	(20.6)
65～74 歳	190	(23.7)
75 歳以上	231	(28.8)
無回答	23	(2.9)

(4) 障がいの種類

- 「身体障害者手帳」所持者が 68.8%で高い。

○障がいの種類 ※重複有り	人	%
回答者総数	802	(100.0)
身体障害者手帳	551	(68.7)
療育手帳	117	(14.6)
精神障害者保健福祉手帳	57	(7.1)
指定難病特定医療費受給者証	84	(10.5)
障害福祉サービス（児童）受給者	4	(0.5)
無回答	33	(4.1)

第2節 調査結果の特徴

第1節 障がいの状況について

- 今回の調査では、回答者の障がい種別は、「身体障害者手帳」所持者が全体の約7割を占めており、「療育手帳」及び「精神障害者保健福祉手帳」、「指定難病特定医療費受給者証」所持者がそれぞれ1割ずつの回答であった。注) 重複障がいを含む。
- 回答者の年齢構成をみると、身体障がいは「75歳以上」が約4割で多く、知的障がいは「19～29歳」、精神障がいは「30～39歳」「40～49歳」「50～64歳」がそれぞれ2～3割で多い。難病患者は「50～64歳」が最も多く、障がい種別によって年齢構成が異なる。
- 障害者手帳所持者の状況をみると、身体障害者手帳所持者は「1級」が多く、「上肢、下肢障害・体幹機能障害・脳原性運動機能障害」が多い。療育手帳所持者は、「マルA」から「C」まで各等級とも2～3割ずつを占める。精神障害者保健福祉手帳所持者は、「2級」が約7割で多い。
- 主な障がいや難病の治療に関して、最近6か月の医療機関の受診状況は、「主に通院」が7割で高く、「入院・通院していない」が約2割である。また、知的障がいは「入院・通院していない」が約4割で高い。精神障がいと難病患者は「主に入院」の割合がやや高い。

第2節 障害福祉サービスについて

- 『障害福祉サービス』の利用状況をみると、全体で「利用している」が24.6%で、前回調査の19.0%と比べて5.6ポイント増加している。また、知的障がいの方だけでみると、障害福祉サービスを「利用している」人の割合が約6割で高い。身体障害者手帳所持者の人数が多いため利用者も多いが、身体障害者手帳所持者に占める割合は22.1%に止まる。
- 最も利用されている『障害福祉サービス』は、身体障がいは「療養介護、生活介護、施設入所」が36.9%であり、次に「居宅介護、重度訪問介護」が18.0%である。また、知的障がいの方は「自立訓練（生活訓練、機能訓練）」が33.8%で高い。精神障がいの方は「共同生活援助（グループホーム）」と「就労移行、就労継続支援」が特に高い。
- 今後利用したい『障害福祉サービス』は、身体障がいと知的障がいとも「短期入所」の希望が高い。また、精神障がいは「就労移行、就労継続支援」が比較的高い。さらに、障がい種別に関わらず「計画相談支援、障害児相談支援」の割合が高い。
- 現在利用している『障害福祉サービス』の満足度は、全体では「満足」と「ほぼ満足」を合わせると7割で高い。しかし、前回調査と比べると4.8ポイント減少した。

第3節 教育や就労、社会参加について

- 平日の過ごし方をみると、身体障がいの方は「何もしていない」や「一般企業等での就労」が高い。その一方、知的障がいの方は「作業所やデイケア」や「幼稚園や保育園、学校など」が高い。
- 児童・生徒にたずねた保育や教育について望むことは、「卒業後の情報や進路指導」が44.1%で最も高く、次に「先生や保護者の障がいに対する理解」があげられている。
- 働いている方にたずねた仕事や働くことについては、「このまま働きたい」が8割以上で高い。働きやすい環境づくりに関しては、「障がいに対する上司の理解や同僚の理解」が最も高く、次に「企業の障がい者雇用に対する理解」が続いている。

第4節 外出や社会参加について

- 外出について、全体の55.7%が「ひとりで外出できる」と回答し、前回調査の50.6%と比べて5.1ポイント増加した。また、知的障がいの方をみると「付き添いがあれば外出できる」が50.4%で特に高い。
- 外出の頻度は、「ほとんど毎日」が34.9%で高いが、「週に2～3日」、「月に数回」、「外出しない（外出できない）」がそれぞれ2割程度である。知的障がいの方は「ほとんど毎日」が61.5%で外出の頻度が特に高い。一方で、外出の機会を「もっと増やしたい」と考えている人が2割いる。特に、精神障がいの方は、外出の機会を「もっと増やしたい」人が33.3%で他の障がいよりも高い。
- 日ごろ、楽しみや生きがいを持って生活している人が全体の63.3%で、前回調査と比べて3.4ポイント増加した。障がい種別でみると、精神障がいの方は47.3%で楽しみや生きがいを持って生活している人の割合が他の障がいと比べて低い。
- 障がいのある人が支援を受けるだけでなく、自分ができる社会貢献活動（ボランティアなど）に取り組むことについては、「積極的に取り組むべき」と「条件が合えば取り組むべき」を合わせると40.8%である。また、「積極的に取り組むべき」との回答は、精神障がいの方が他の障がいと比べてやや高い。
- 文化活動やスポーツ活動に「参加している」人は全体で15.1%に止まり、前回調査と比べて0.7ポイント増加したが、ほぼ同様の傾向である。また、「参加したいが、できない」人も前回調査と同様である。特に、知的障がいと難病患者の方は「参加している」割合がやや高い。
- 文化活動やスポーツ活動に参加しやすくするためには、身体障がいは「移動手段が確保されている」、知的障がいは「付き添ってくれる人がいること」や「周囲の人の理解が得られること」が高い。また、精神障がいは「周囲の人の理解が得られること」や「障がいや病気のある仲間がいること」が高く、障がい種別で傾向が異なる。

第5節 相談・情報提供について

- 相談ごとがあったとき、「市役所の窓口」が比較的高い。「病院・医院」は精神障がいと難病患者が特に高い。また、知的障がいの方は「障害福祉サービス提供事業所」に相談する割合も比較的高い。
- 相談や情報収集する上で、身体障がいと知的障がいの方は「特に困ることはない」が約4割で高い。その一方で、精神障がいは「しっかり相談にのってもらえるのか不安」が5割で特に高く、難病患者は「どこに相談すればよいのかわからない」が4割で高い。

第6節 災害対策について

- 災害時に不安に思うことは、各障がいとも「避難場所の設備や生活環境が不安」との回答が高い。また、精神障がいと難病患者は「投薬や治療が受けられない」が最も高い。
- 家族が不在やひとり暮らしの場合、災害時に近所で助けてくれる人が「いる」は全体の3割で前回調査（H26）、前々回調査（H23）と同様だが、精神障がいの方をみると「いる」との回答が14.0%で低い。
- 災害への備えは、各障がいとも「特にない」が最も高い。次に「家族や友人との緊急連絡手段」を確保している人が比較的高い。精神障がいの方は「避難場所や避難経路の確認」が28.1%でやや高い。

第7節 障害者差別解消法について

- 障害者差別解消法は、障がいのある人への「不当な差別的取扱い」を禁止し、障がいのある人が困らないように役所や会社・お店などに「合理的配慮の提供」を求めている。この法律について「だいたい内容を知っている」は11.5%に止まり、「知らなかった」が全体の55.4%を占める。また、精神障がいは「知らなかった」が66.7%で高い。
- 障がいのある人への理解は、「深まった」が19.0%に止まり、前回調査、前々回調査と比べて若干減少した。特に、精神障がいの方は「まったく深まっていない」との回答が3割で、他の障がいよりも高い。
- 障がいのある人への差別や偏見を感じた経験は、「とてもある」と「少しある」を合わせて33.1%が回答しており、前回調査の29.1%と比べて4ポイント増加している。特に、精神障がいの方は「とてもある」が35.1%で、他の障がいと比べて高い。
- いやな思いを感じた場面は、「買い物やレジャーの外出先」が身体障がい、知的障がい、難病患者とも最も高い。また、精神障がいの方は「会社など就労の場」や「近所づきあい」が最も高い。さらに、知的障がいの方は「学校など教育の場」や「地域の行事や集まり」といった回答も比較的高い。

第8節 安心して暮らせる社会について

- 現在、全体の7割以上が「家族と一緒に」の同居である。将来の希望をみると、知的障がいや「福祉施設」が3割、知的障がいと精神障がいや「仲間と一緒に（グループホーム）」の希望も1割程度ある。
- 将来の生活の不安をたずねたところ、身体障がいや「健康のこと」が43.6%で最も高く、難病患者も52.4%で高い。知的障がいや「親に先立たれること」に不安を感じている人が34.2%で最も高く、精神障がいや「生活費のこと」が61.4%で最も高い。難病患者は「医療のこと」が53.6%で最も高い。
- 成年後見制度の理解と意向は、制度の理解について「名前も内容も知っている」が27.7%である。その一方で、「名前も内容も知らない」との回答は24.2%で、前回調査の30.3%、前々回調査の40.7%と比べて減少した。

第9節 潮来市の障がい福祉の取り組みについて

- 潮来市の障がい福祉の満足度とみると、『理解を深める取り組み』や『ボランティアなどの活動』、『健康相談、健康診査』、『相談窓口の使いやすさ』の満足度が比較的高い。その一方で、『就業・雇用対策』や『歩きやすさ移動の便利さ』の不満が高い。
- 満足度を前回調査と比較すると、『障がい児への保育・療育』や『健康相談、健康診査』の満足度が特に上がっている。その一方で『総合支援法以外の福祉サービス』の評価が下がっている。

◆アンケートから見られる主な課題について◆

◇「短期入所」を始め、精神障がいの「就労移行、就労継続支援」、障がい種別に関わらず「計画相談支援、障害児相談支援」の充実が求められる。

『障害福祉サービス』の利用者はアンケート回答者の24.6%であるが、前回調査よりも増加している。障害福祉サービス利用者の満足度は7割で依然として高いが、前回調査と比べると減少した。今後の希望は「短期入所」サービスを始め、精神障がいの「就労移行、就労継続支援」、障がい種別に関わらず「計画相談支援、障害児相談支援」の充実が求められる。

◇障がいに対する理解の促進が望まれている。

保育や教育に関して望むこととして、「卒業後の情報や進路指導」が最も高いが、次に「先生や保護者の障がいに対する理解」があげられている。また、働いている人に関しては「上司や同僚の理解」や「企業の障がい者雇用に対する理解」といった障がいに対する理解の促進が望まれている。

◇外出しやすい環境づくりはハード面だけでなく、障がいに対する周囲の理解促進も大切。

外出や社会参加について、「ひとりで外出できる」人は増加しているが、現在よりも外出の機会を「増やしたい」とする人が2割いた。特に、精神障がいの方は外出を増やしたいとの意向が高く、外出しやすい環境づくりとしてハードだけでなく障がいに対する周囲の理解促進も求められる。

◇障がいのある方が積極的に社会参加できるような取り組みの充実が求められる。

日ごろ、楽しみや生きがいを持って生活している人が前回調査よりも増加した。また、障がいのある人が自分でできる社会貢献活動(ボランティア)に取り組む意向も4割ある。しかし、文化活動やスポーツ活動に参加している人は15.1%に止まり少ない。もっと参加したいとする人もいるため、移動手段の確保や周囲の理解など、障がいのある方が積極的に社会参加できるような取り組みの充実が求められる。

◇相談窓口の周知・確保とともに、継続した相談支援の充実が望まれる。

相談や情報収集する上では、「市役所の窓口」が高いが、障がい種別によって異なり、精神障がいや難病患者は「病院・医院」、知的障がいの方は「障害福祉サービス提供事業所」に相談する割合も高い。しかし、「しっかり相談にのってもらえるのか不安」や「どこに相談すればよいかわからない」といった回答も高いため、相談窓口の周知・確保とともに、継続した相談支援の充実が求められる。

◇災害時に対する自らの備えの準備とともに、避難場所の確保と充実が求められる。

災害対策については、「特に何もしていない」割合が高いものの、各障がいとも「避難場所の設備や生活環境が不安」との回答が比較的高い。また、精神障がいと難病患者は「投薬や治療」に関して不安を持っている割合が高いため、災害時に対する自らの備えの準備とともに、避難場所の確保と充実が求められる。

◇障害者差別解消法を「知っている」人が1割程度に止まるため、引き続き、周知が必要。

障害者差別解消法の周知について、「だいたい内容は知っている」が1割程度に止まり、「知らなかった」が5割以上を占めるため、引き続き、障がいのある人への「不当な差別的取扱い」の禁止、障がいのある人が困らないように、役所や会社・お店などに「合理的配慮の提供」を求めていく必要がある。

◇障がいに対する理解が若干減少しているため、理解し合う地域づくりが求められる。

障がいのある人への理解は、「深まった」との割合が2割だが、前回調査、前々回調査と比べて若干減少した。また、日常生活でいやな経験をしたという人が3割いる。特に、いやな思いを感じた場面として、「買い物やレジャーの外出先」が最も高い。精神障がいの方は「会社など就労の場」、さらに知的障がいの方は「学校など教育の場」のほか、「地域の行事や集まり」といった回答も高いため、障がいに対する理解促進を図り、理解し合う地域づくりが求められる。

◇グループホームなど、安心して暮らせる住まいの確保が求められる。

現在、全体の7割以上が家族との同居と回答しているが、将来の希望をみると、知的障がいと精神障がいの方は「グループホーム」の希望も1割程度あるため、安心して暮らせる住まいの確保が求められる。

◇自立した生活訓練の場の確保、自分にあった働き方で就労継続できる環境づくりが大切。

知的障がいの方は「親に先立たれること」の不安が高い。そのため、自立した生活訓練の場の確保とともに、将来の生活に向けた家族の理解も大切である。精神障がいの方は、生活費について不安に感じている割合が高いため、自分にあった働き方で就労継続できる環境づくりが求められる。

◇雇用の場の確保、移動手段の確保が求められる。

潮来市の障がい福祉の取り組みの満足度は、『理解を深める取り組み』や『ボランティアなどの活動』、『健康相談、健康診査』、『相談窓口の使いやすさ』の満足度が比較的高くなっている。その一方で、『就業・雇用対策』や『歩きやすさ移動の便利さ』の不満が高いため、雇用の場の確保、移動手段の確保が求められる。

◇きめ細かな障がい者福祉サービスの充実に取り組んでいく必要がある。

前回調査と比べると、『障がい児への保育・療育』や『健康相談、健康診査』の満足度が特に上がっている反面、『総合支援法以外の福祉サービス』の評価が下がっているため、だれもが安心して暮らせる社会を目指して、きめ細かな障がい者福祉サービスの充実に取り組んでいく必要がある。

第2章 アンケート結果

第1節 障がいの状況について

1-1 障がいの種別

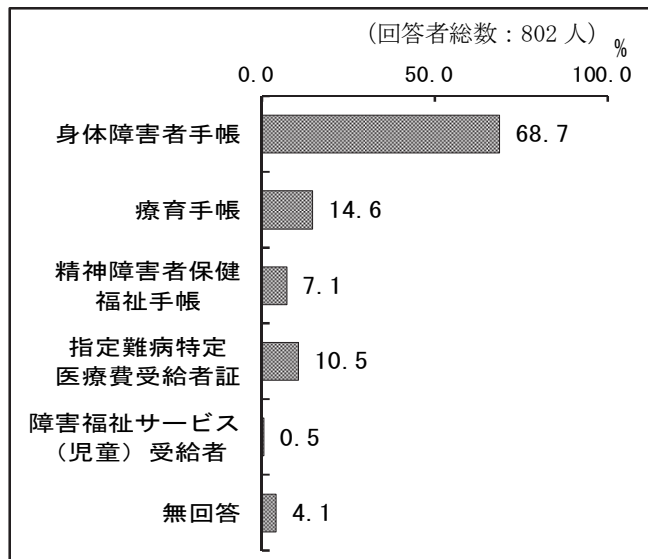
「身体障害者手帳」所持者が7割強。

回答者の障がいの種別をみると、「身体障害者手帳」所持者が68.7%で高い。

また、「療育手帳」所持者が14.6%、「精神障害者保健福祉手帳」所持者が7.1%、「指定難病特定医療費受給者証」所持者が10.5%、「障害福祉サービス（児童）受給者証」所持者が0.5%である。

注）それぞれ重複の障がいを含む。

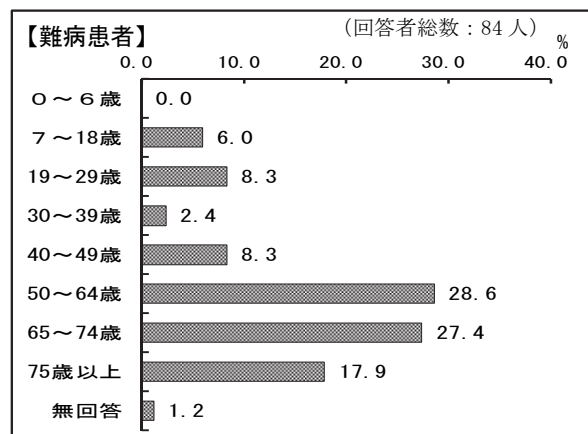
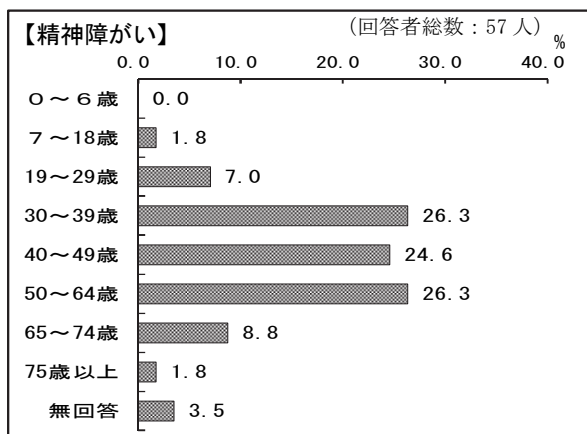
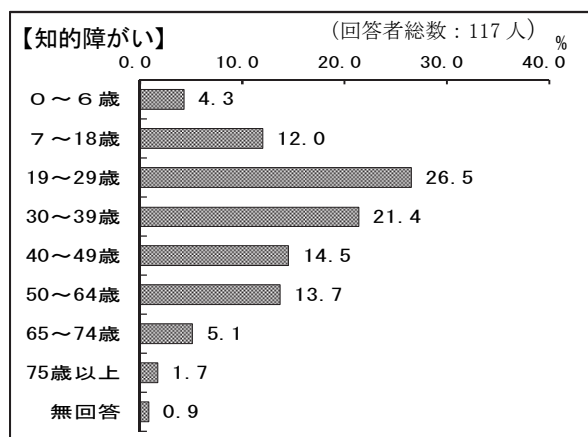
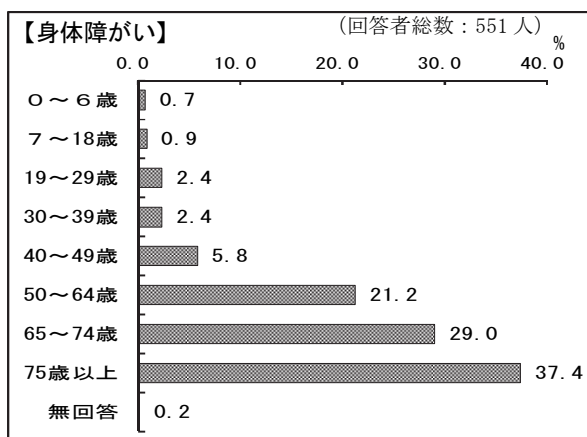
図 障がいの種別（問6） 《複数回答》



【年齢別】

障がいのある方の年齢をみると、“身体障がい”は「75歳以上」が37.4%で最も高い。“知的障がい”は「19～29歳」が26.5%、“精神障がい”は「30～39歳」と「50～64歳」が26.3%ずつ、“難病患者”は「50～64歳」が28.6%で最も高い。

図 年齢別（問6）



1-2 障害者手帳所持者の状況

（身体障害者手帳所持者のみ）

「1級」、「肢体不自由」が最も高い。

身体障害者手帳所持者の等級をみると、「1級」が37.0%で最も高い。

図 身体障害者手帳の等級（付問6）

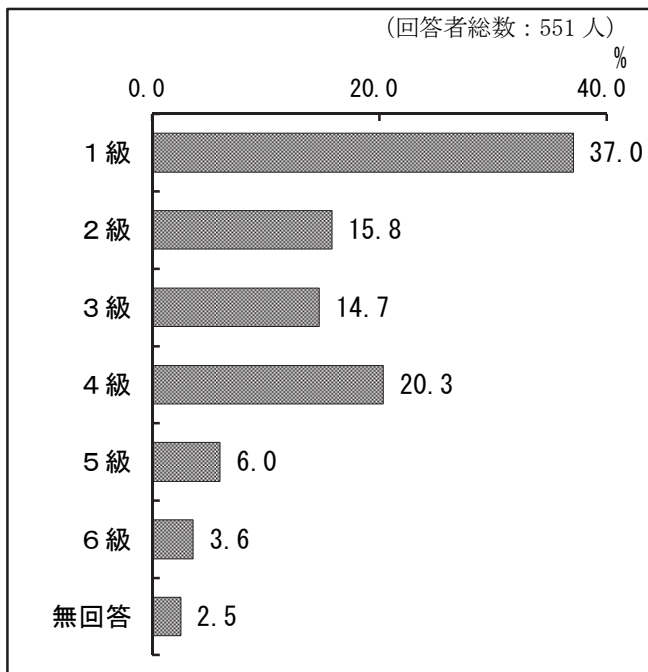
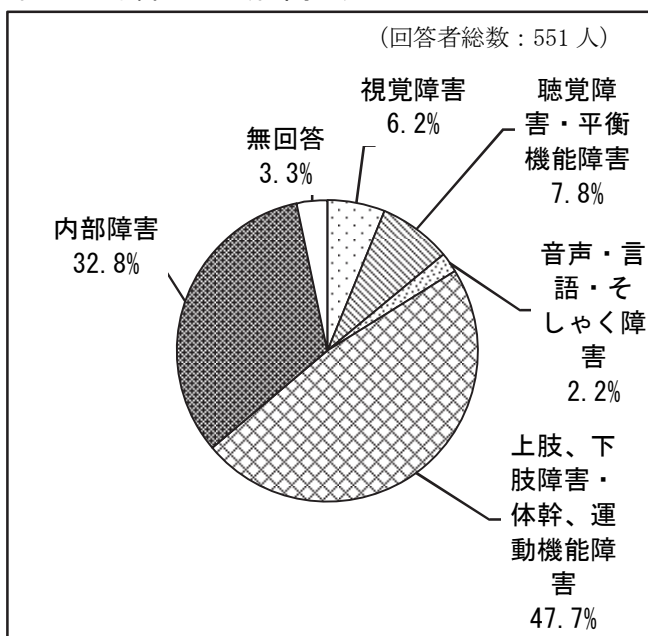


図 主な障がい（付問6）

主な障がいの種類をみると、「肢体不自由（上肢、下肢障害・体幹機能障害・脳原性運動機能障害）」が47.7%で高く、次に「内部障害」が32.8%である。

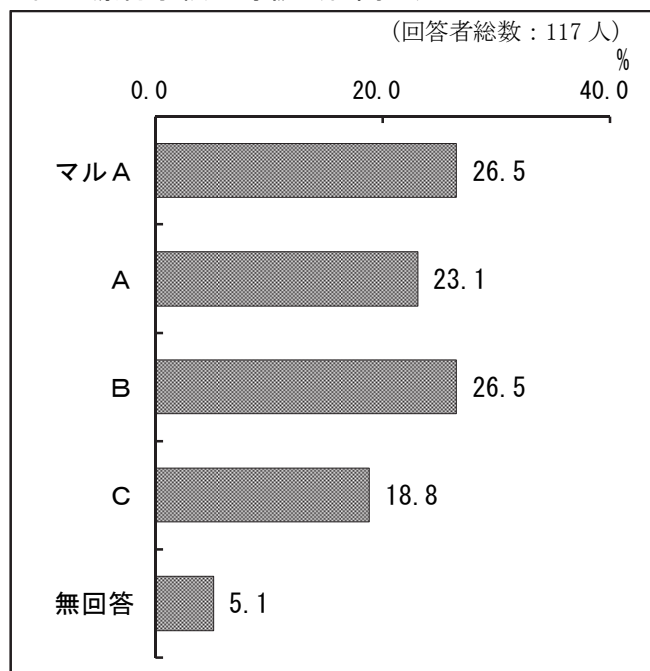


（療育手帳所持者のみ）

「マルA」と「B」がともに26.5%。

療育手帳所持者の等級をみると「マルA」と「B」がともに26.5%ずつで高い。

図 療育手帳の等級（付問6）

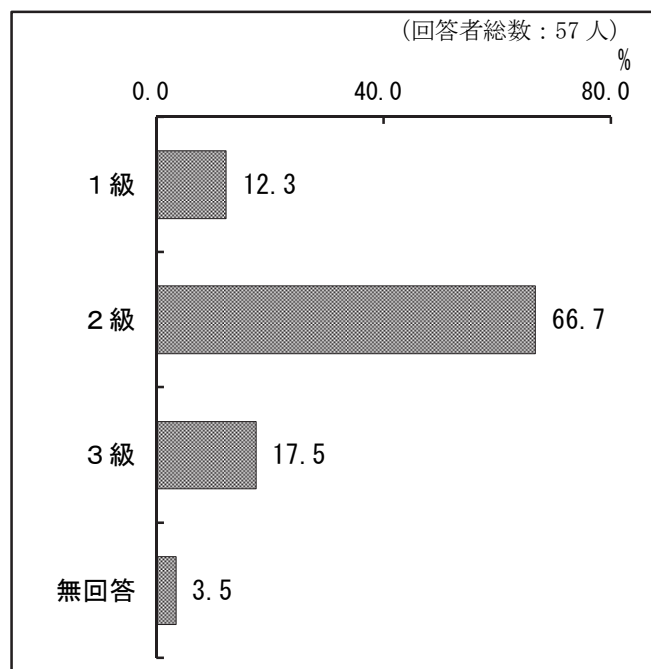


（精神障害者保健福祉手帳所持者のみ）

「2級」が57.4%で高い。

精神障害者保健福祉手帳の等級をみると、「2級」が66.7%で最も高い。

図 精神障害者保健福祉手帳の等級（付問7）



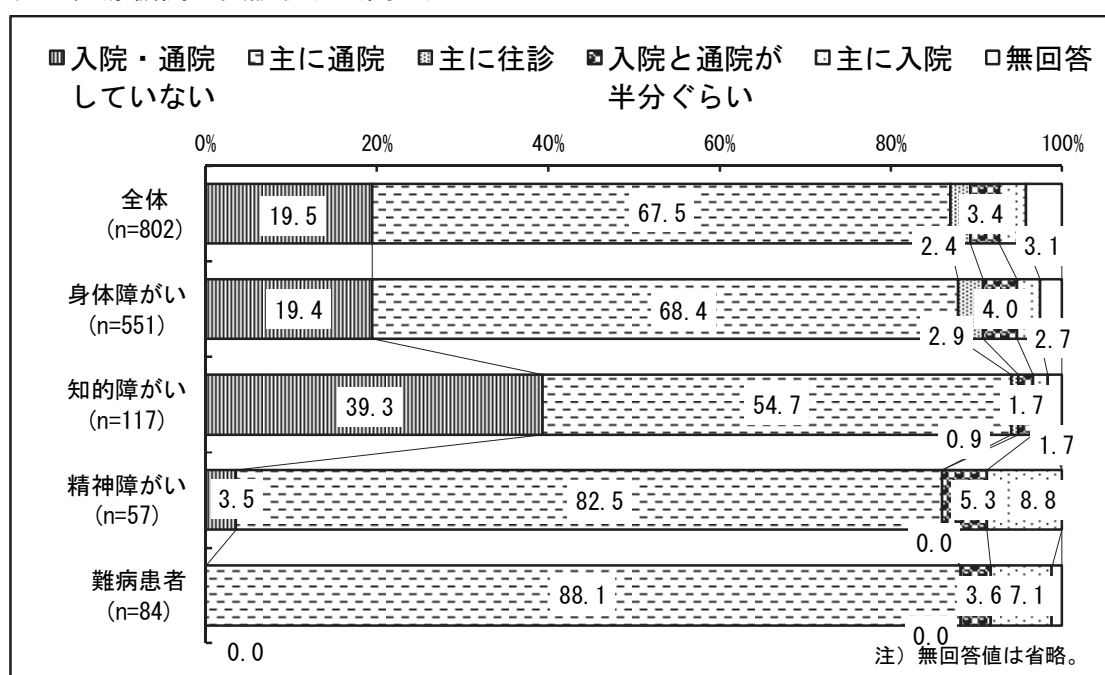
1-3 医療機関の受診状況

「主に通院」が7割で最も高い。次に「入院・通院していない」が約2割。

主な障がいや難病の治療に関して、最近6か月の医療機関の受診状況は、全体で「主に通院」が67.5%で最も高く、次に「入院・通院していない」が19.5%である。

障がい種別にみると、“身体障がい”は全体と同様の傾向だが、“知的障がい”は「入院・通院していない」が39.3%で高い。また、「主に入院」をみると“精神障がい”は8.8%、“難病患者”は7.1%でやや高い。

図 医療機関の受診状況（問5）



第2節 障害福祉サービスについて

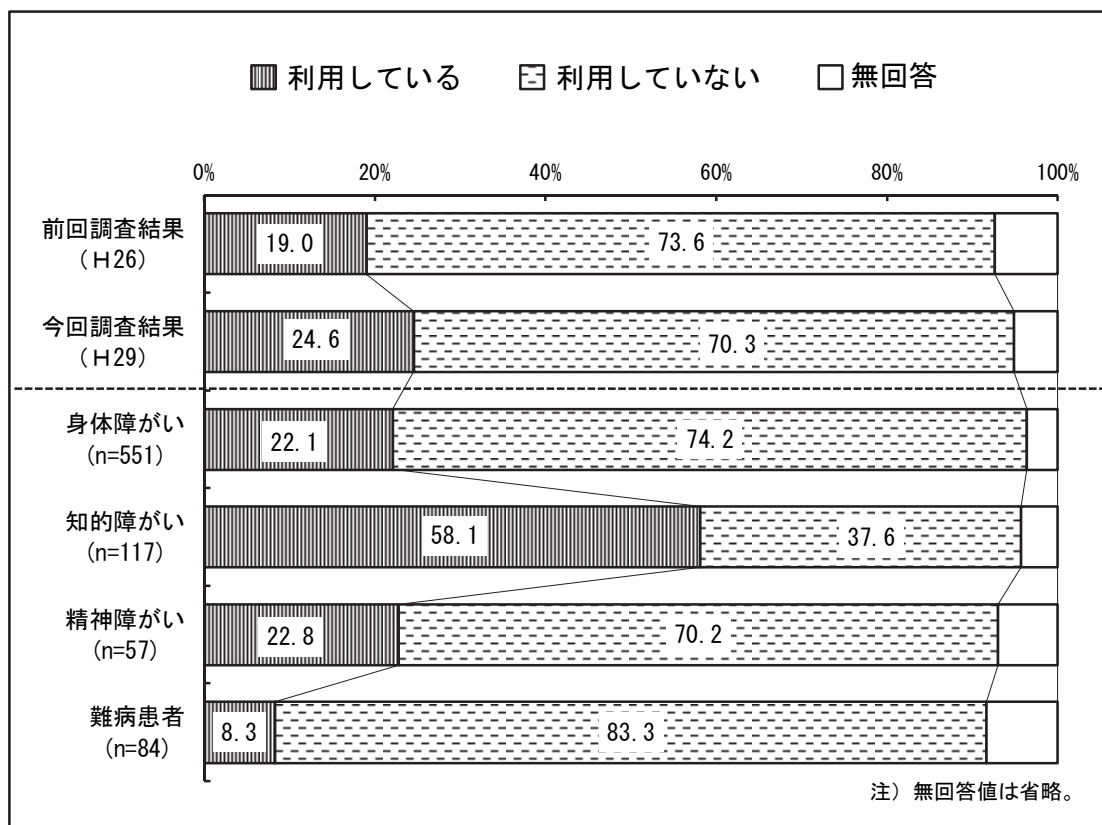
2-1 障害福祉サービスの利用状況

障害福祉サービスを「利用している」が全体の24.6%で、前回より5.6ポイント増加。

『障害福祉サービス』の利用状況をみると、全体で「利用している」が24.6%で、前回調査の19.0%と比べて5.6ポイント増加した。

また、障がい種別にみると、「利用している」人は、“知的障がい”が58.1%で特に高い。なお“身体障がい”は手帳所持者数が多いため障害福祉サービスの利用人数は多いが、身体障害者手帳所持者に占める割合は22.1%に止まる。

図 障害福祉サービスの利用状況（問7）

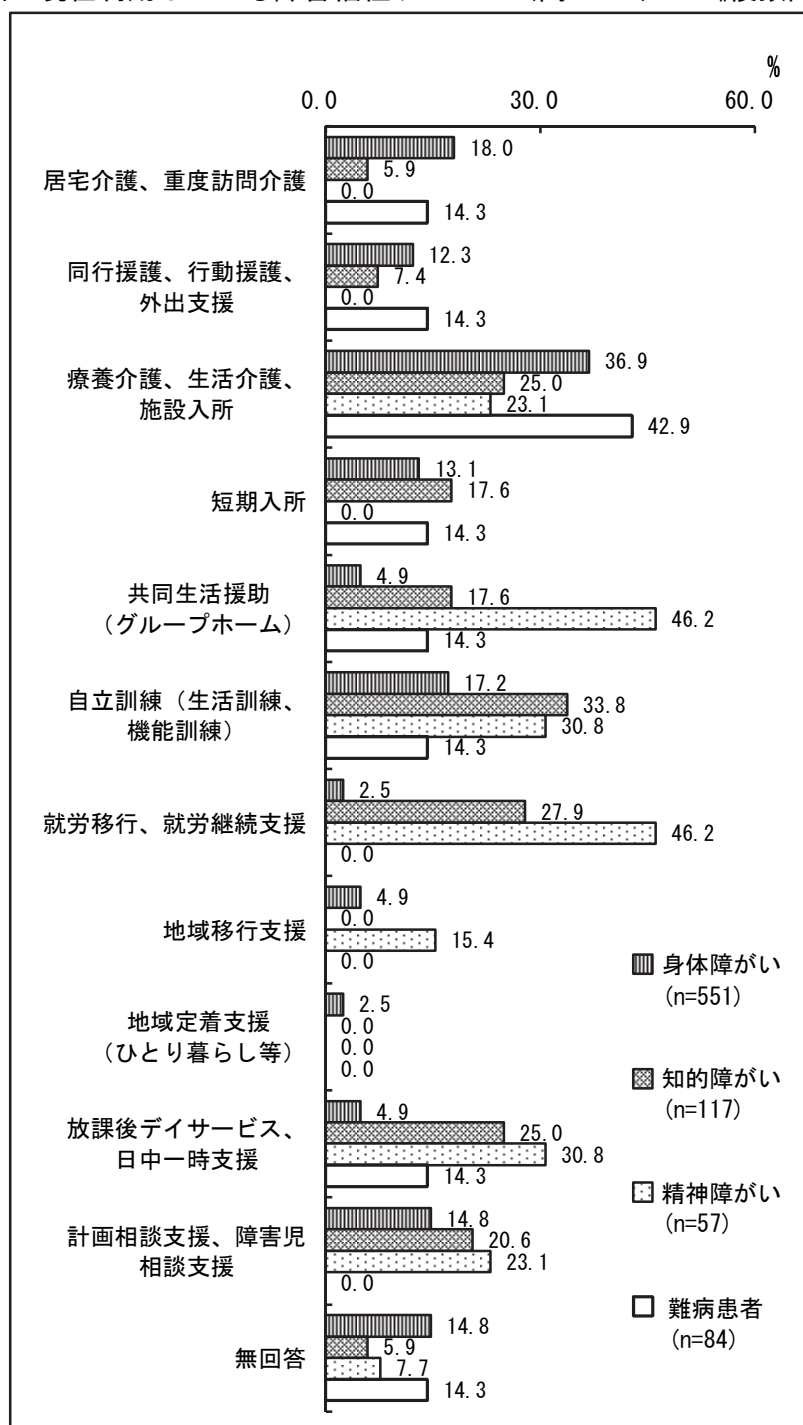


（現在利用している障害福祉サービス）

『障害福祉サービス』の利用者に、利用している障害福祉サービスをたずねたところ、“身体障がい”は「療養介護、生活介護、施設入所」が36.9%、「居宅介護、重度訪問介護」が18.0%で高い。

また、“知的障がい”は「自立訓練（生活訓練、機能訓練）」が33.8%で高く、“精神障がい”は「共同生活援助（グループホーム）」と「就労移行、就労継続支援」が46.2%ずつで割合が高い。

図 現在利用している障害福祉サービス（問7-1） 《複数回答》

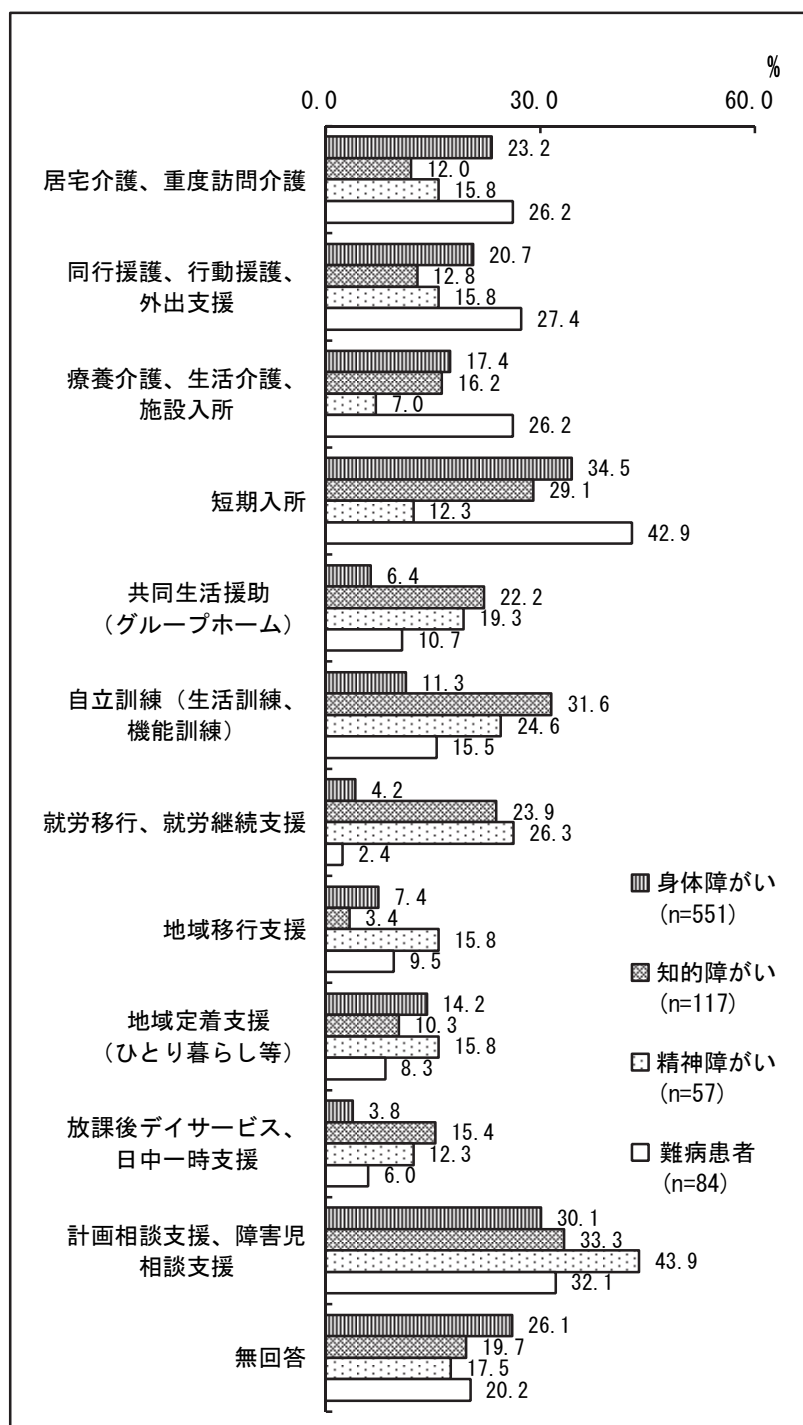


（今後利用したい障害福祉サービス）

『障害福祉サービス』を利用している、利用していないに関わらず、今後（今後も）利用したいと思う障害福祉サービスをたずねたところ、“身体障がい”は「短期入所」が34.5%で最も高い。“知的障がい”も「短期入所」が29.1%で比較的高い。“精神障がい”は「就労移行、就労継続支援」が26.3%で比較的高い。

なお、障がい種別に関わらず「計画相談支援、障害児相談支援」の割合が高い。

図 今後利用したい障害福祉サービス（問8） 《複数回答》



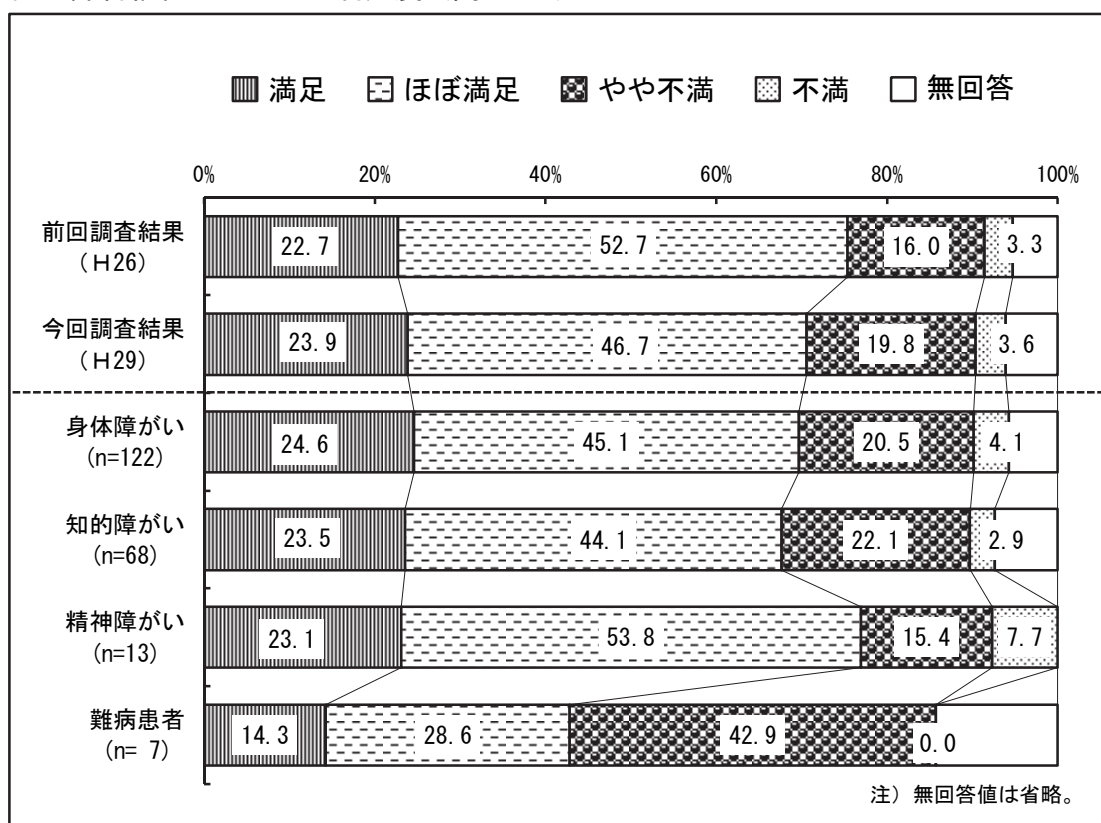
2-2 障害福祉サービスの満足度

「満足」と「ほぼ満足」を合わせると約7割。「知的障がい」は不満が25.0%。

現在利用している『障害福祉サービス』の満足度をみると、全体で「満足」が23.9%、「ほぼ満足」が46.7%で、合わせると70.6%である。前回調査と比べて4.8ポイント減少した。

一方、障がい種別にみると、「知的障がい」は「やや不満」22.1%と「不満」2.9%を合わせると25.0%を占める。

図 障害福祉サービスの満足度（問7-2）



第3節 教育や就労、日中の過ごし方について

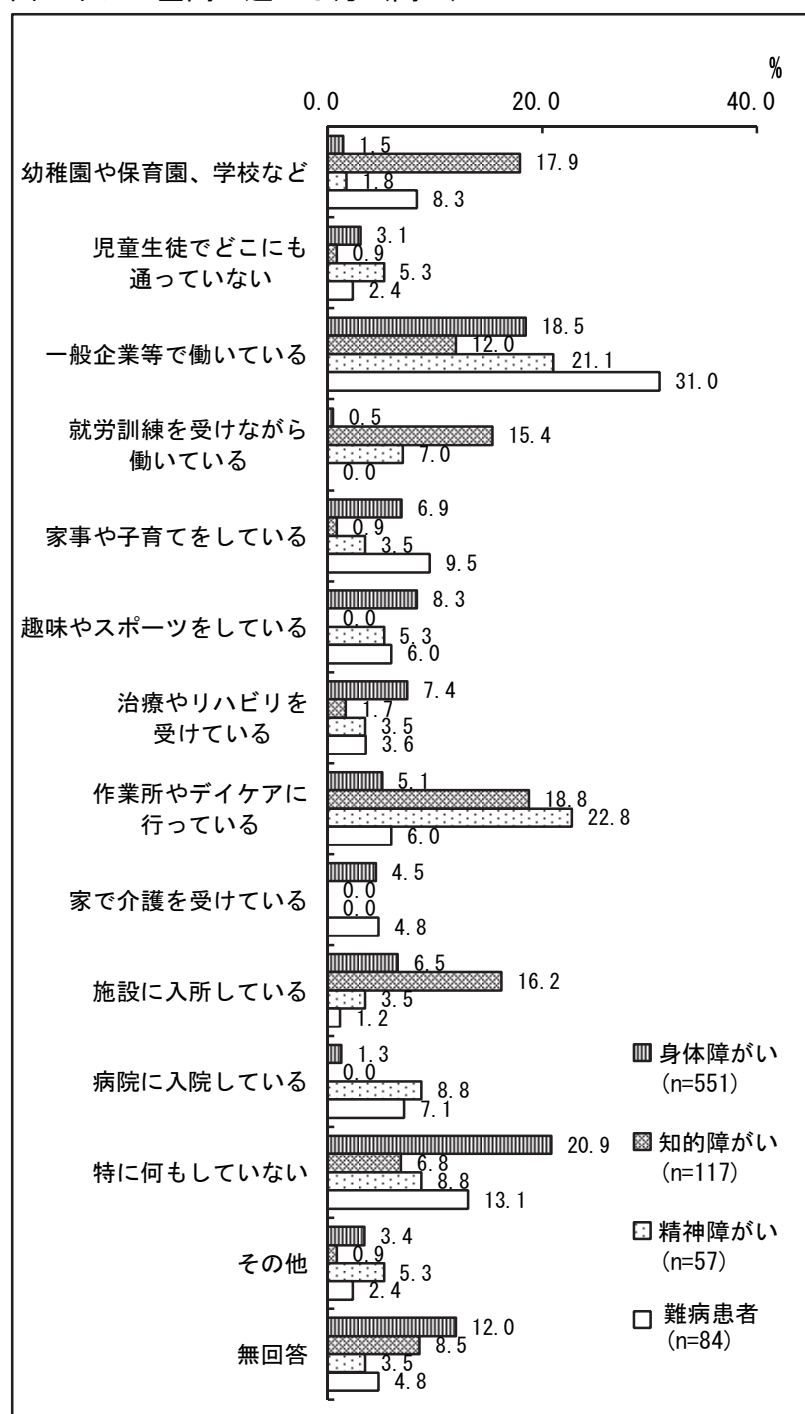
3-1 平日の昼間の過ごし方

“身体障がい”は「何もしていない」や「一般企業等での就労」、「知的障がい」は「作業所やデイケア」、「幼稚園や保育園、学校など」が高い。

平日の昼間の過ごし方をみると、“身体障がい”は「特に何もしていない」が20.9%で最も高く、次に「一般の企業等で働いている」が18.5%で続く。

“知的障がい”は「作業所やデイケアに行っている」が18.8%、「幼稚園や保育園、学校など」が17.9%で高い。

図 平日の昼間の過ごし方（問9）

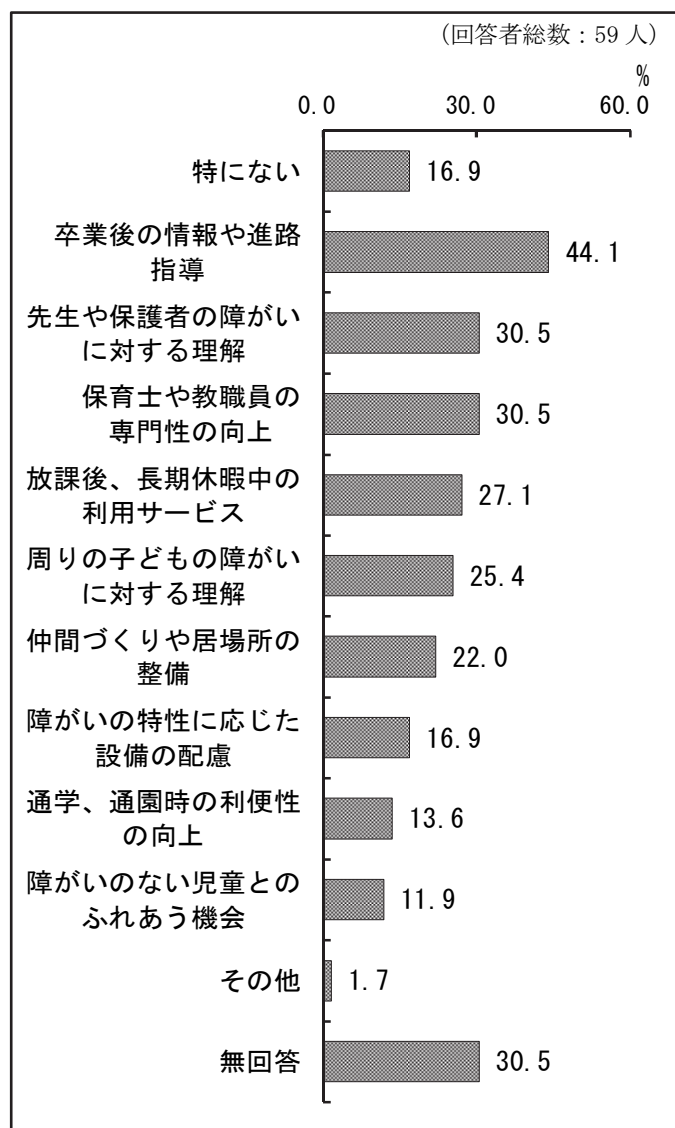


（児童・生徒のみ）

児童・生徒の方に、保育や教育について望むことをたずねたところ、「卒業後の情報や進路指導」が44.1%で最も高く、次に「先生や保護者の障がいに対する理解」が30.5%で続く。

また、「特にない」は16.9%である。

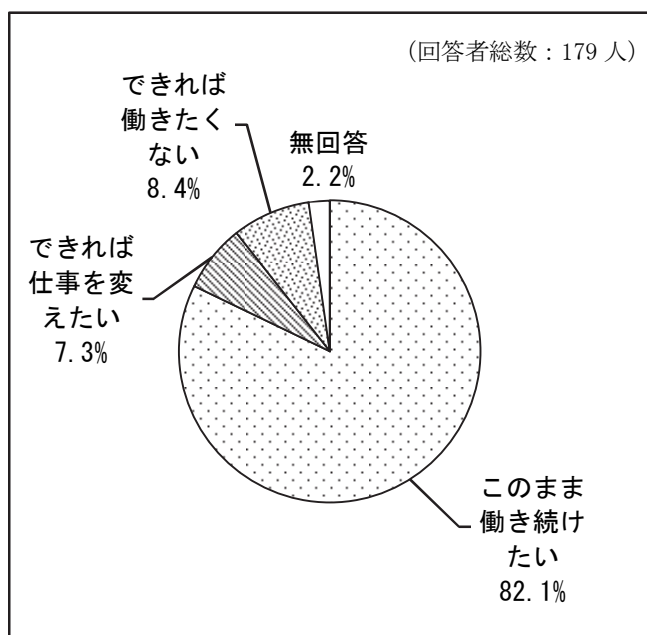
図 保育や教育について望むこと（問11）《複数回答》



（働いている人のみ）

働いている人に、働くことについてどのように思っているかたずねたところ、「このまま働きたい」が82.1%を占める。

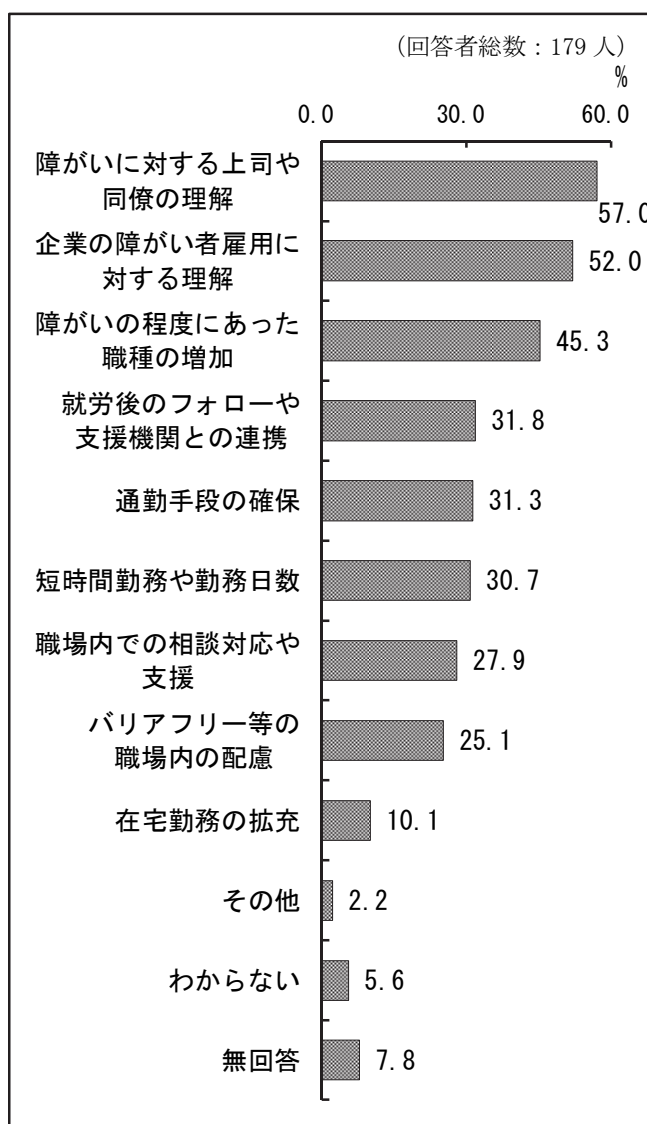
図 働くことについて（問 12-1）



働いている人に、障がいのある人が働きやすい環境をつくるには、なにが必要と思うかたずねたところ、「障がいに対する上司や同僚の理解」が57.0%で最も高い。

次に「企業の障がい者雇用に対する理解」が52.0%、「障がいの程度にあった職種の増加」が45.3%で続く。

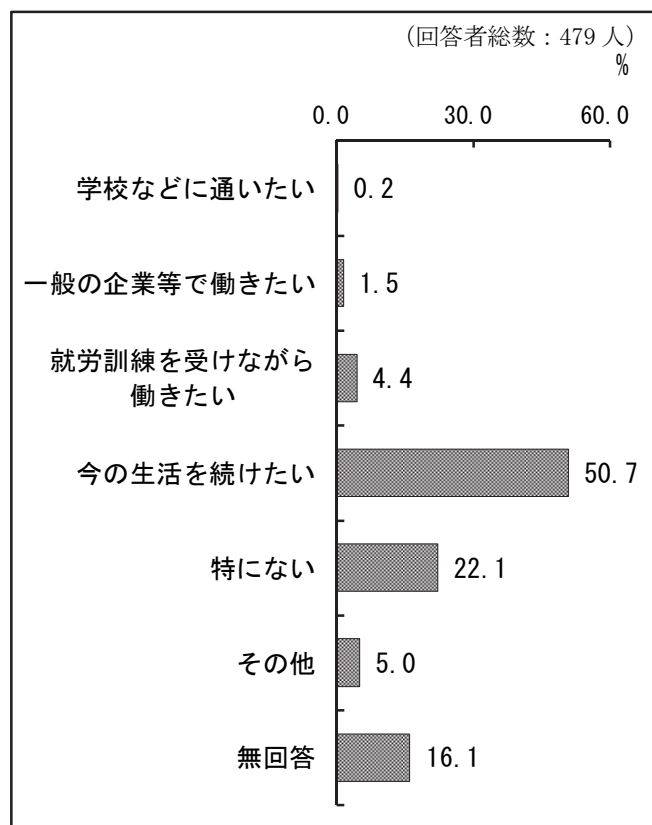
図 働きやすい環境づくり（問 12-2）《複数回答》



（その他の人のみ）

その他を回答した人に、平日の昼間の過ごし方の希望をたずねたところ、「今の生活を続けたい」が50.7%で最も高い。

図 平日の過ごし方の希望（問10）



第4節 外出や社会参加について

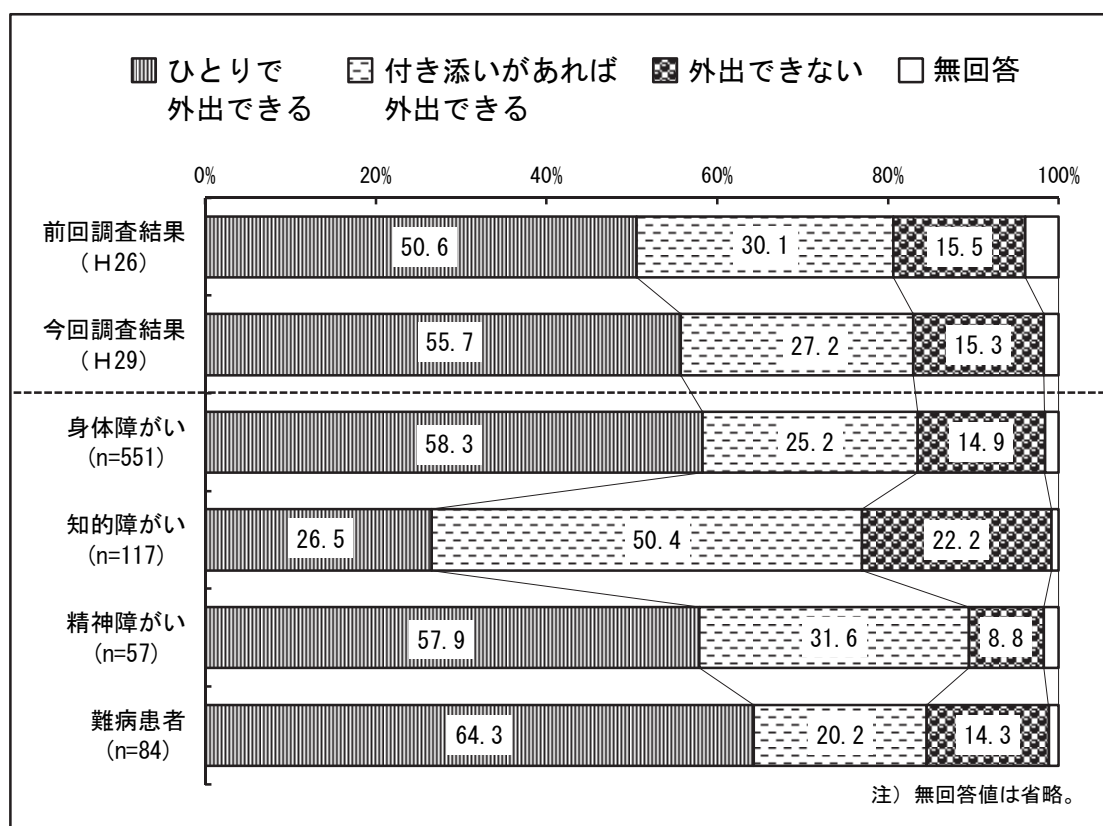
4-1 ひとりでの外出

“知的障がい”は、「付き添いがあれば外出できる」が5割で高い。

ひとりで外出できるかたずねたところ、「ひとりで外出できる」が、全体の55.7%で最も高く、前回調査の50.6%と比べて5.1ポイント増加した。

障がい種別でみると、“知的障がい”は「付き添いがあれば外出できる」が50.4%で他の障がいと比べて特に高い。

図 ひとりでの外出（問13）



4-2 外出の頻度と今後の意向

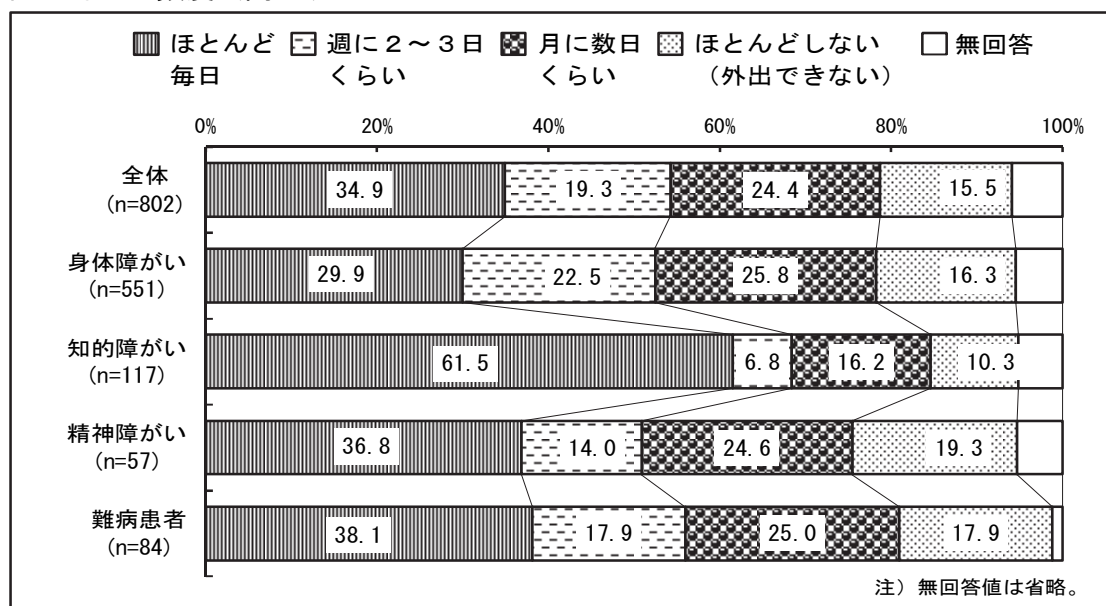
「ほとんど毎日」外出している人が 34.9%。もっと外出を増やしたい意向は 20.4%。

通勤・通学・通所、レジャーなど外出の頻度をみると、全体で「ほとんど毎日」外出している人が 34.9%である。“知的障がい”は 61.5%で特に外出の頻度が高い。

一方、外出の意向では「もっと増やしたい」が、全体で 20.4%だが、“精神障がい”は 33.3%で他の障がいよりも「もっと増やしたい」との回答が高い。

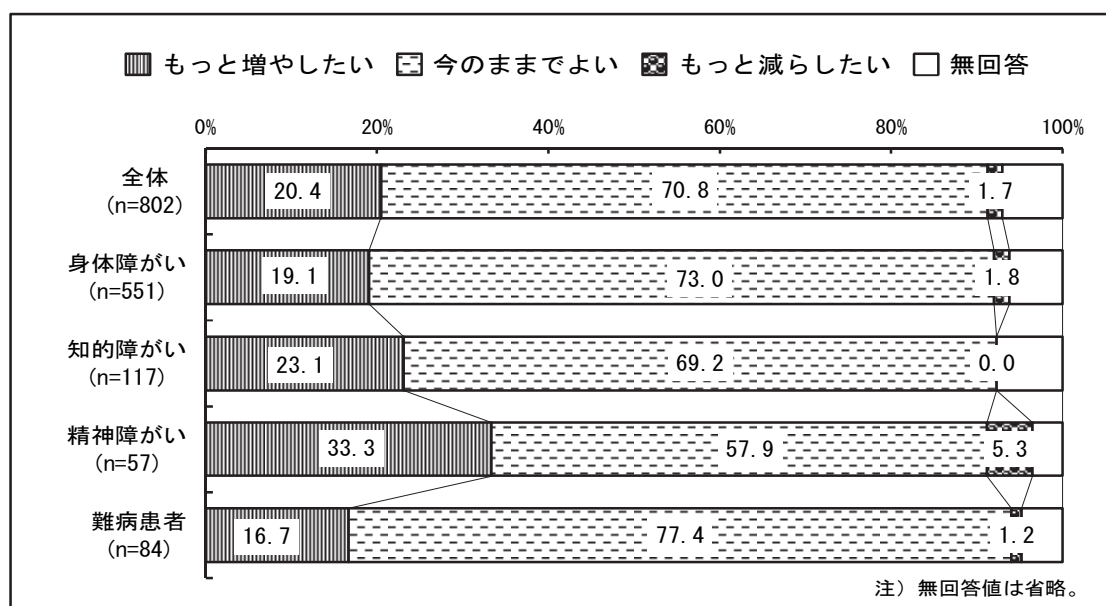
（外出の頻度）

図 外出の頻度（問 14）



（外出の意向）

図 外出の意向（問 15）



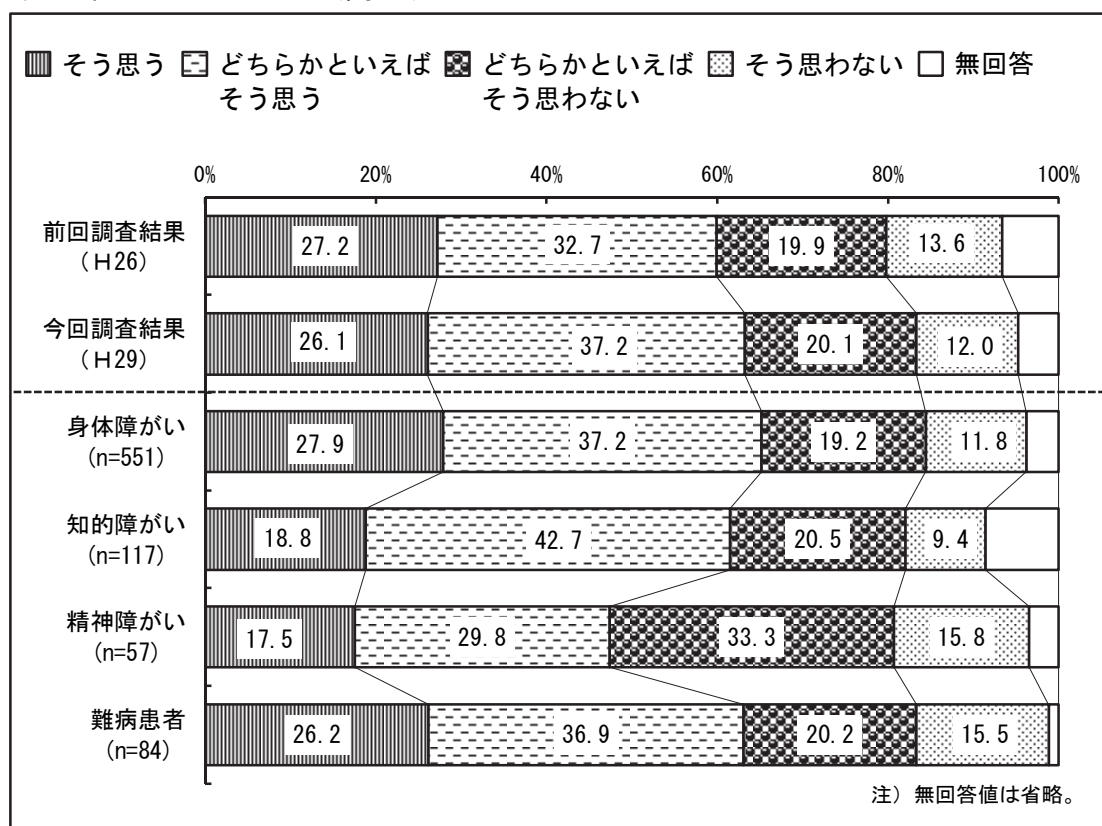
4-3 楽しみや生きがい

楽しみや生きがいを持って生活している人が 63.3%。“精神障がい”の割合は低い。

日ごろ、楽しみや生きがいを持って生活しているかたずねたところ、全体で「そう思う」が 26.1%、「どちらかといえばそう思う」が 37.2%で合わせると 63.3%である。前回調査と比べて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”が 3.4 ポイント増加した。

障がい種別でみると“精神障がい”は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”は 47.3%で、楽しみや生きがいの割合が他の障がいと比べて低い。

図 楽しみや生きがい（問 16）



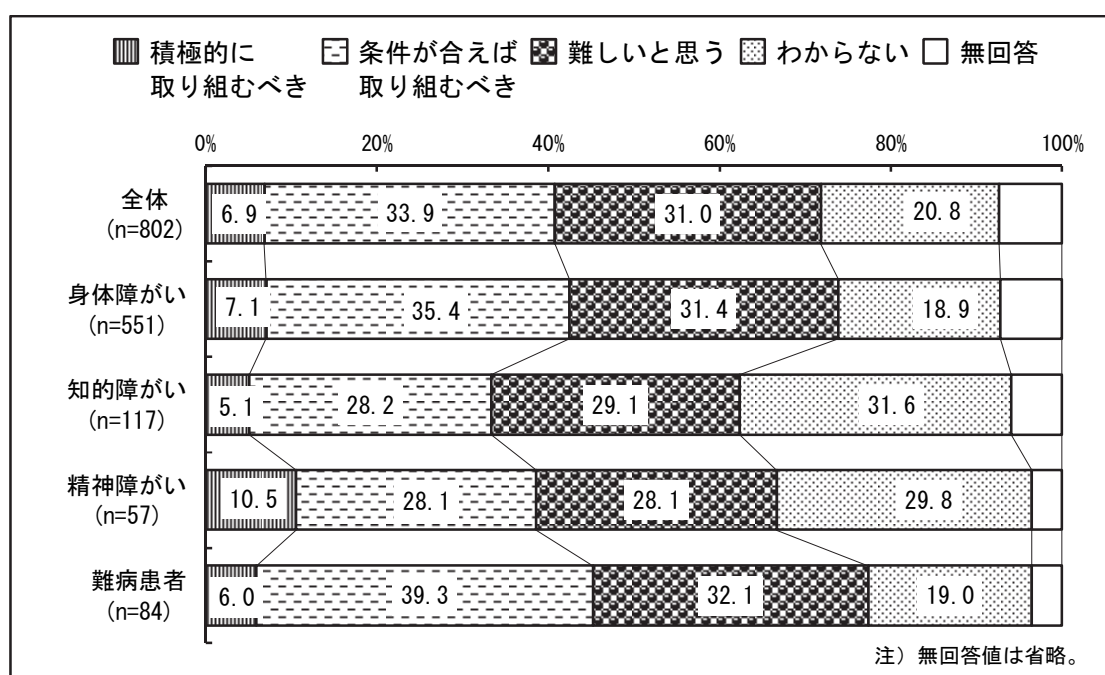
4-4 社会貢献活動に取り組む意向

「積極的に取り組むべき」と「条件が合えば取り組むべき」を合わせて40.8%。

障がいのある人が支援を受けるだけでなく、自分ができる社会貢献活動（ボランティアなど）に取り組むことについてたずねたところ、全体で「積極的に取り組むべき」が6.9%、「条件が合えば取り組むべき」が33.9%で合わせると“取り組むべき”が40.8%である。

障がい種別でみると“精神障がい”は「積極的に取り組むべき」が10.5%で他の障がいと比べてやや高い。

図 社会貢献活動に取り組む意向（問17）



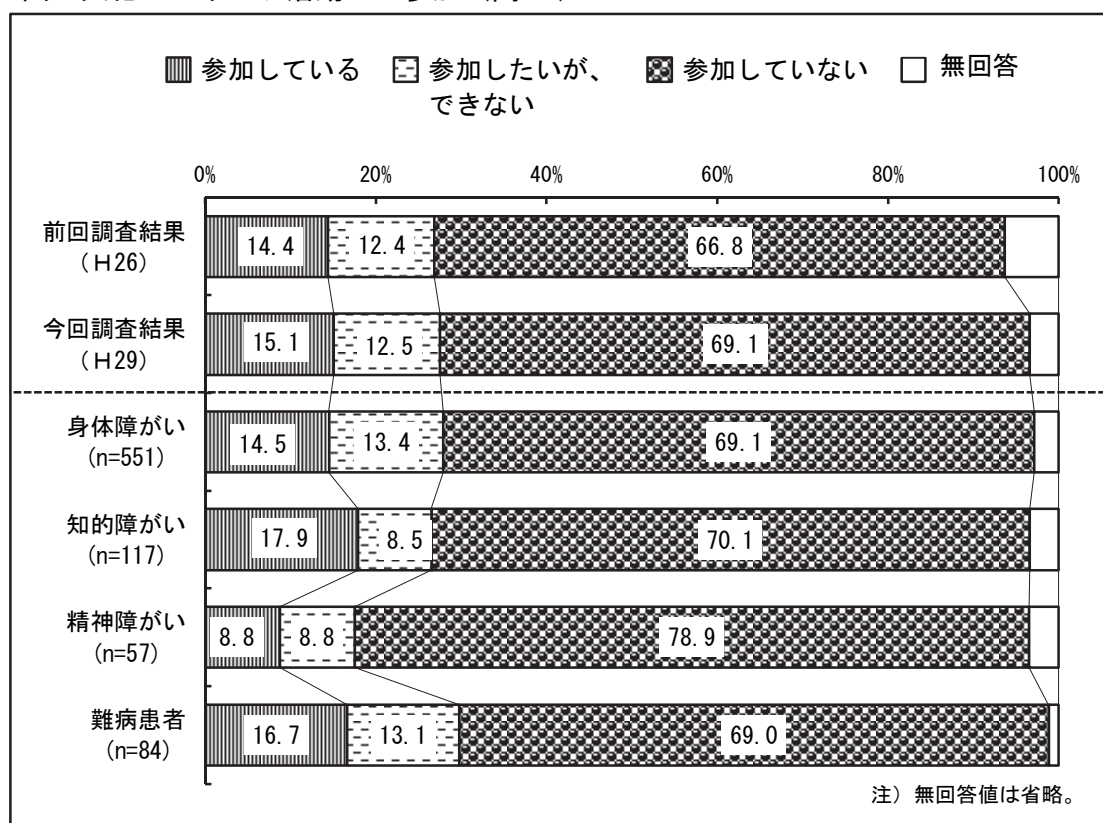
4-5 文化・スポーツ活動への参加

「参加している」が15.1%。「参加していない」が69.1%。

文化活動やスポーツ活動の参加については、全体で「参加している」が15.1%に止まる。
また、「参加したいが、できない」が12.5%で前回調査と同様の傾向である。

障がい種別にみると“知的障がい”と“難病患者”は、「参加している」割合がやや高く、
一方で“精神障がい”は低い。

図 文化・スポーツ活動への参加（問 18）



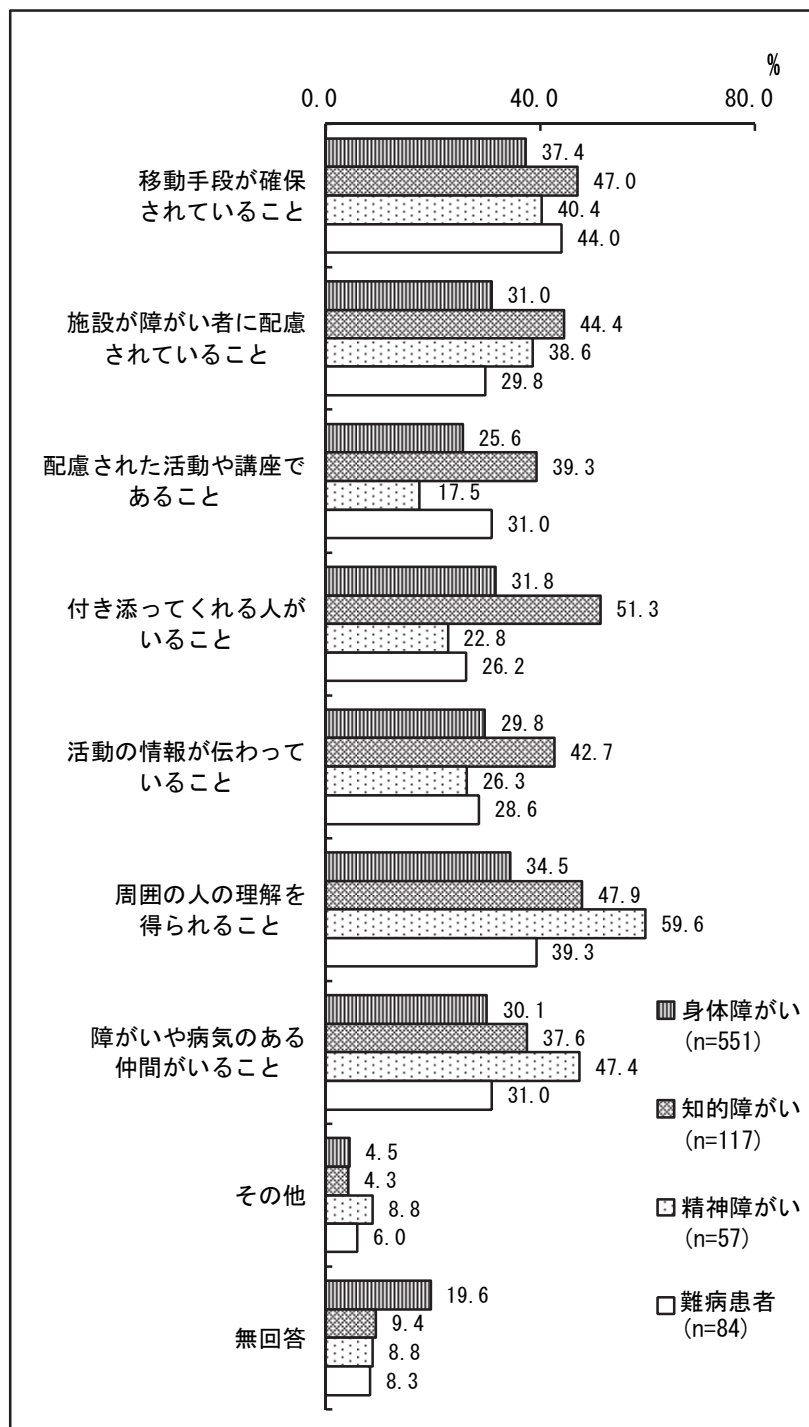
文化活動やスポーツ活動などに参加しやすくなるために、どのようなことが大切かたずねたところ、障がい種別によって傾向が異なる。

“身体障がい”は「移動手段が確保されていること」が37.4%で最も高い。

“知的障がい”は「付き添ってくれる人がいること」が51.3%、「周囲の人の理解が得られること」が47.9%で高い。

“精神障がい”は「周囲の人の理解が得られること」が59.6%、「障がいや病気のある仲間がいること」が47.4%で高い結果である。

図 参加しやすくなること（問 19） 《複数回答》



第5節 相談・情報提供について

5-1 情報の入手先

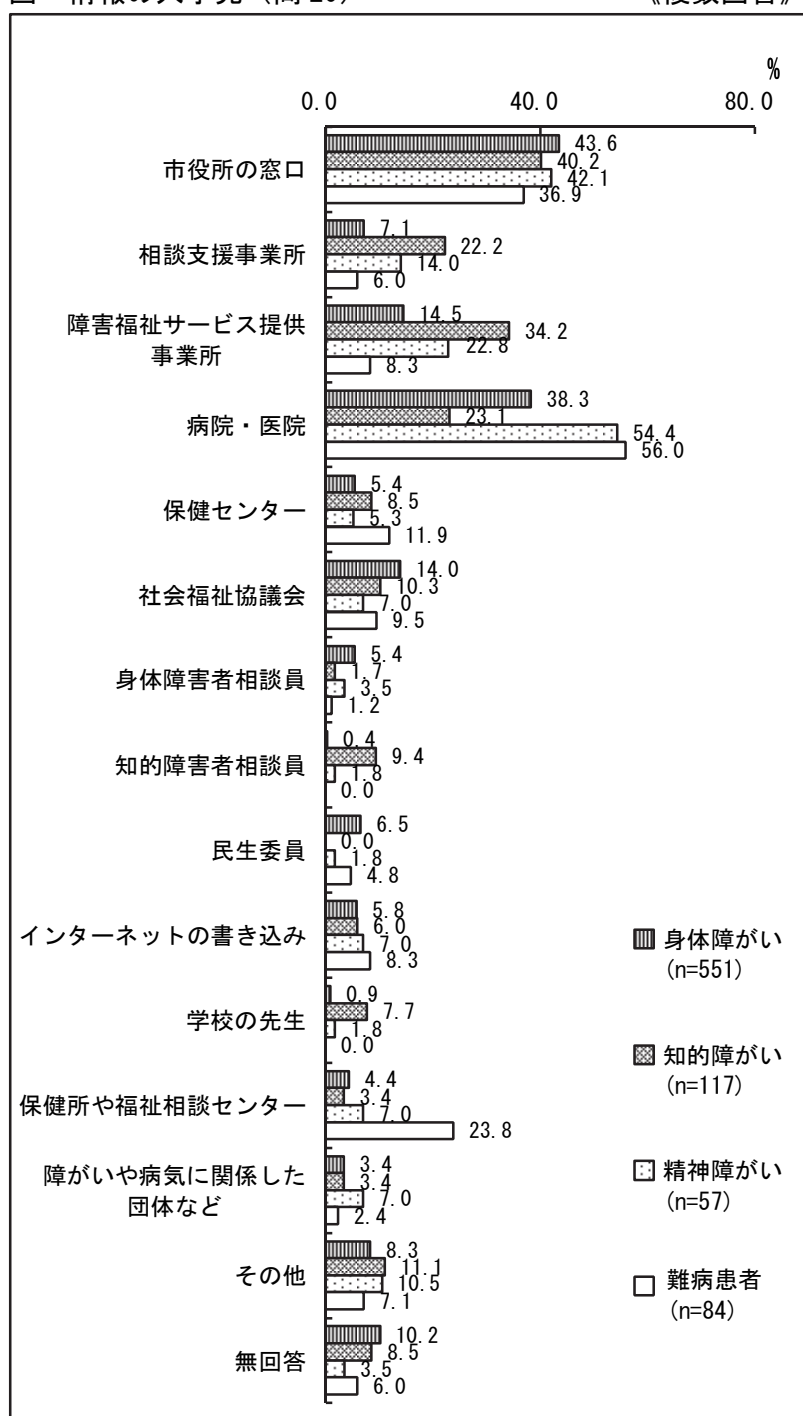
「市役所の窓口」が比較的高い。「病院・医院」は“精神障がい”と“難病患者”が特に高い。“知的障がい”は「障害福祉サービス提供事業所」が比較的高い。

相談ごとがあったとき、まず、どこに相談して情報を得ているかたずねたところ、「市役所の窓口」が比較的高い。「病院・医院」は、“精神障がい”と“難病患者”が特に高い。

“知的障がい”は「市役所の窓口」が40.2%で最も高く、次に「障害福祉サービス提供事業所」が34.2%で続く。

図 情報の入手先（問20）

《複数回答》



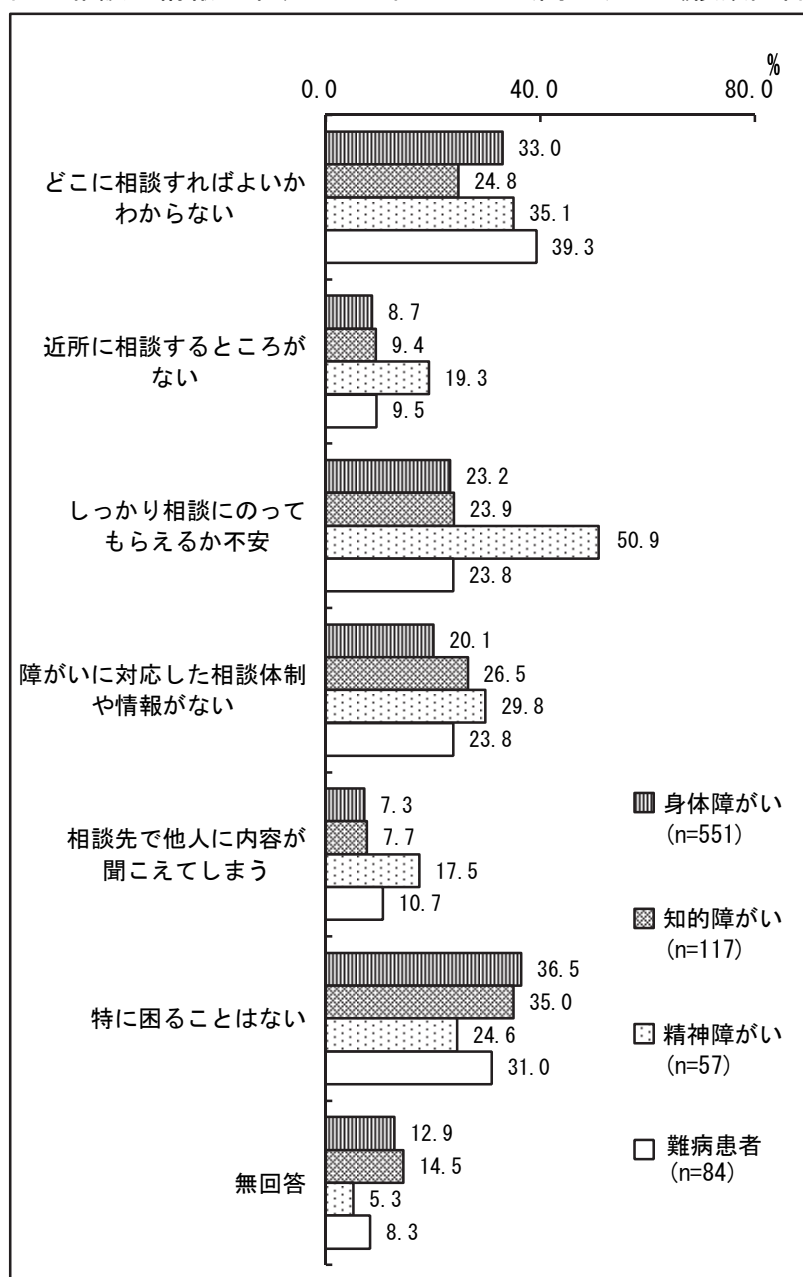
5-2 相談や情報収集する上で困ること

“精神障がい”は「しっかり相談にのってもらえるのか不安」、「難病患者」は「どこに相談すればよいかわからない」が最も高い。

相談や情報収集する上で困ることについては、特に“身体障がい”と“知的障がい”は「特に困ることはない」が最も高い。

その一方で、“精神障がい”は「しっかり相談にのってもらえるのか不安」が50.9%で特に高い。“難病患者”は「どこに相談すればよいかわからない」が39.3%で最も高い。

図 相談や情報収集する上で困ること（問21） 《複数回答》



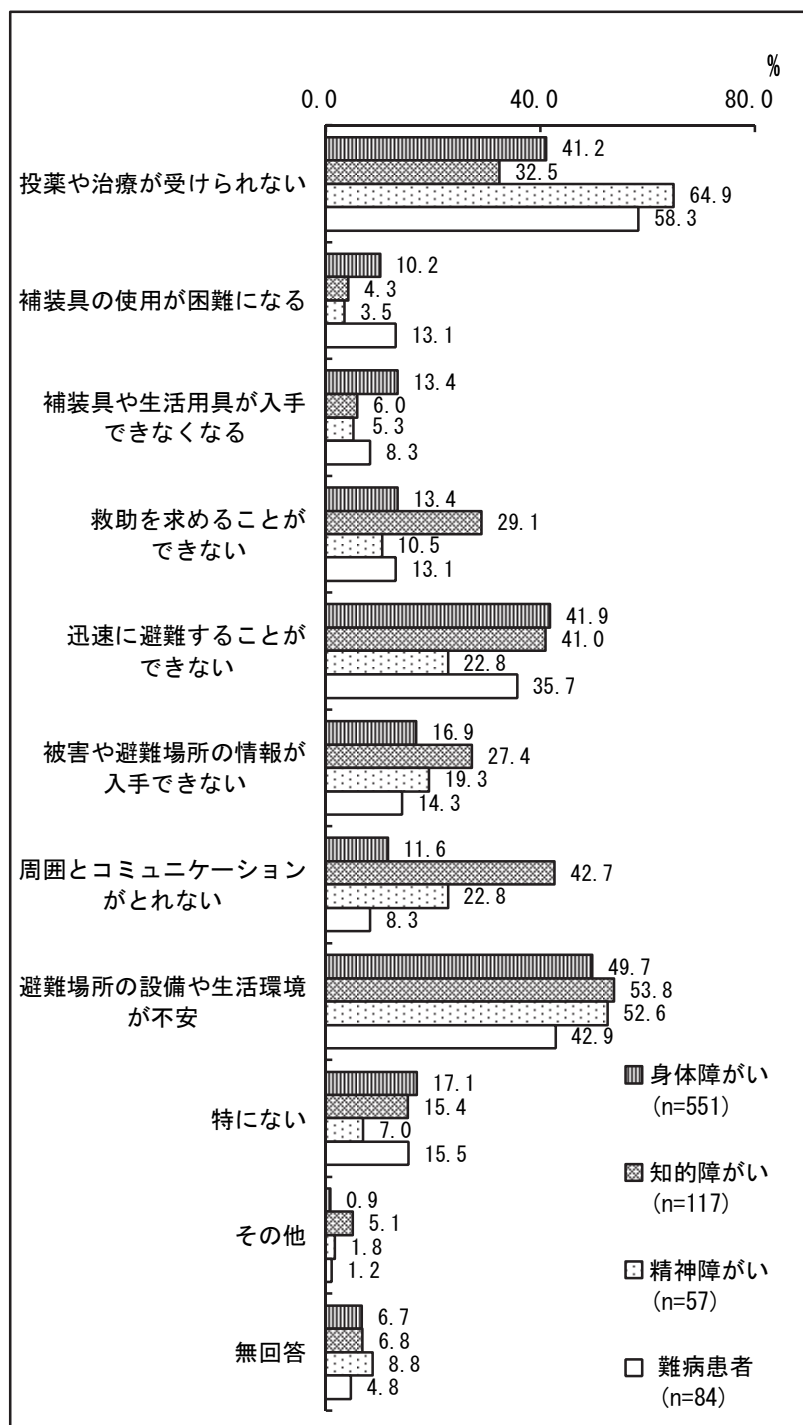
第6節 災害対策について

6-1 災害時に不安に思うこと

各障がいとも「避難場所の設備や生活環境が不安」が高い。また、“精神障がい”と“難病患者”は「投薬や治療が受けられない」が最も高い。

災害時に困ることをみると、“精神障がい”と“難病患者”は「投薬や治療が受けられない」が最も高い。また、各障がいとも「避難場所の設備や生活環境が不安」が高いほか、“知的障がい”は「周囲とコミュニケーションがとれない」も高い。

図 災害時に不安に思うこと（問22） 《複数回答》



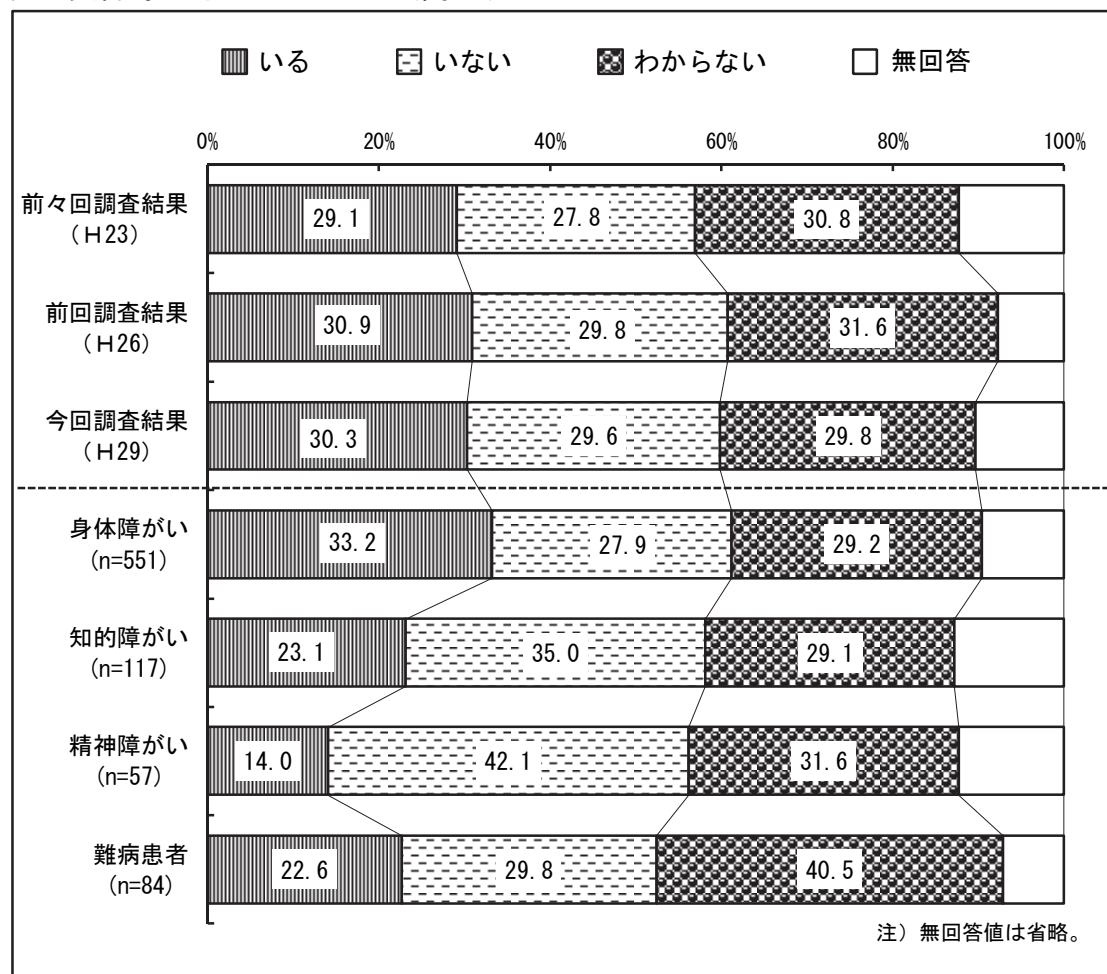
6-2 災害時に助けてくれる人

近所で助けてくれる人が「いる」は3割。“精神障がい”は14.0%に止まる。

家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、近所で助けてくれる人が「いる」が30.3%で、前々回調査、前回調査と同様の傾向である。

また、障がい種別でみると“精神障がい”は「いる」との回答が14.0%で低い。

図 災害時に助けてくれる人（問23）

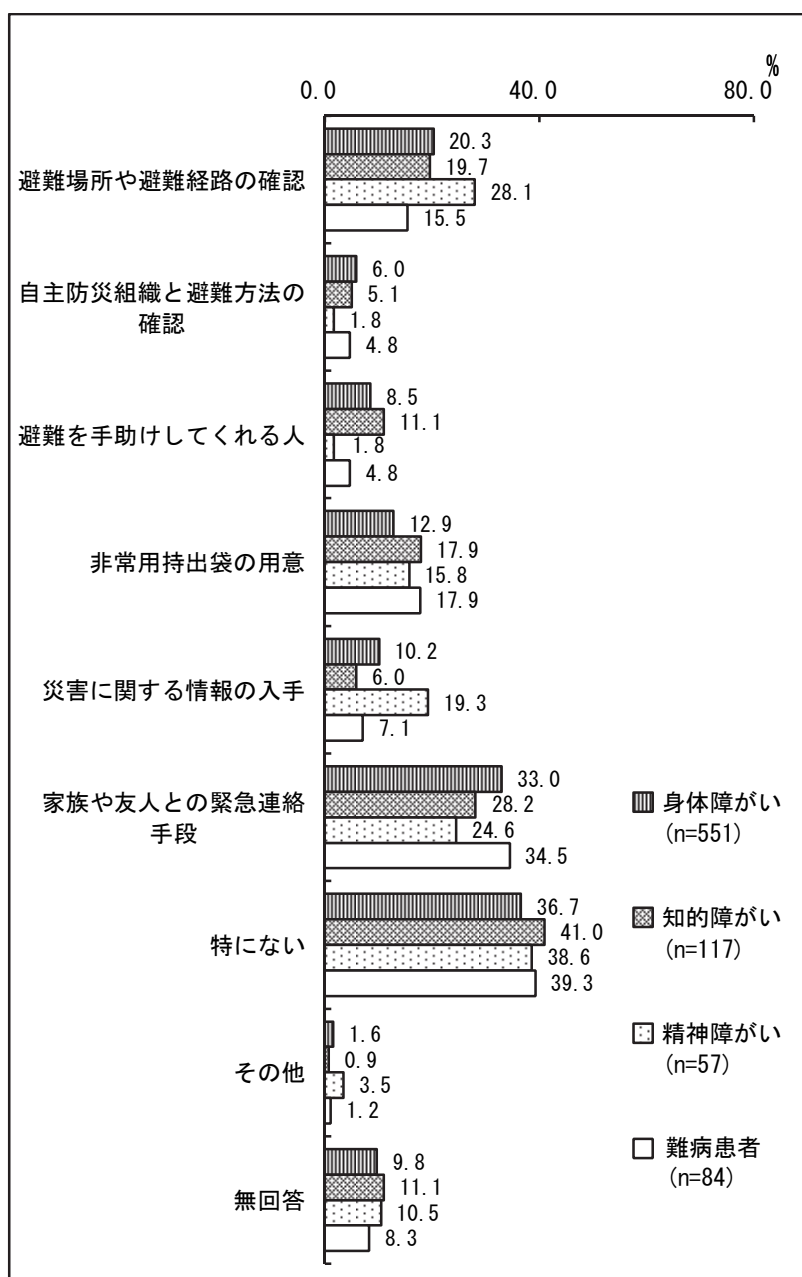


6-3 災害に対する日ごろの備え

「特にない」が最も高いが、「家族や友人との連絡手段」を備えている回答も比較的高い。

日ごろから災害に備えていることは、各障がいとも「特にない」が最も高い。次に「家族や友人との緊急連絡手段」が比較的高い。「精神障がい」は「避難場所や避難経路の確認」が28.1%でやや高い。

図 災害に対する日ごろの備え（問24） 《複数回答》



第7節 障害者差別解消法について

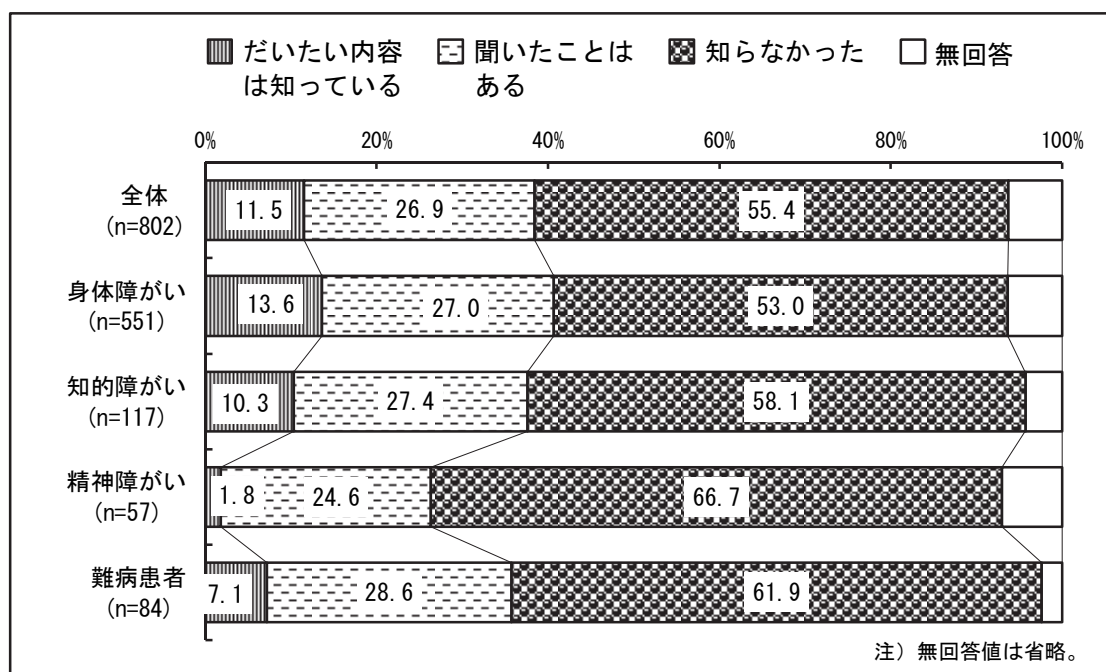
7-1 障害者差別解消法の認知度

「知らなかった」が、全体の55.4%を占める。

障害者差別解消法は、障がいのある人への「不当な差別的取扱い」を禁止し、障がいのある人が困らないように役所や会社・お店などに「合理的配慮の提供」を求めています。この法律の認知度をたずねたところ、「だいたい内容を知っている」が全体の11.5%、「聞いたことはある」が26.9%である。その一方で「知らなかった」が55.4%を占める。

障がい種別でみると、“精神障がい”は「知らなかった」が66.7%で高い。

図 障害者差別解消法の認知度（問25）



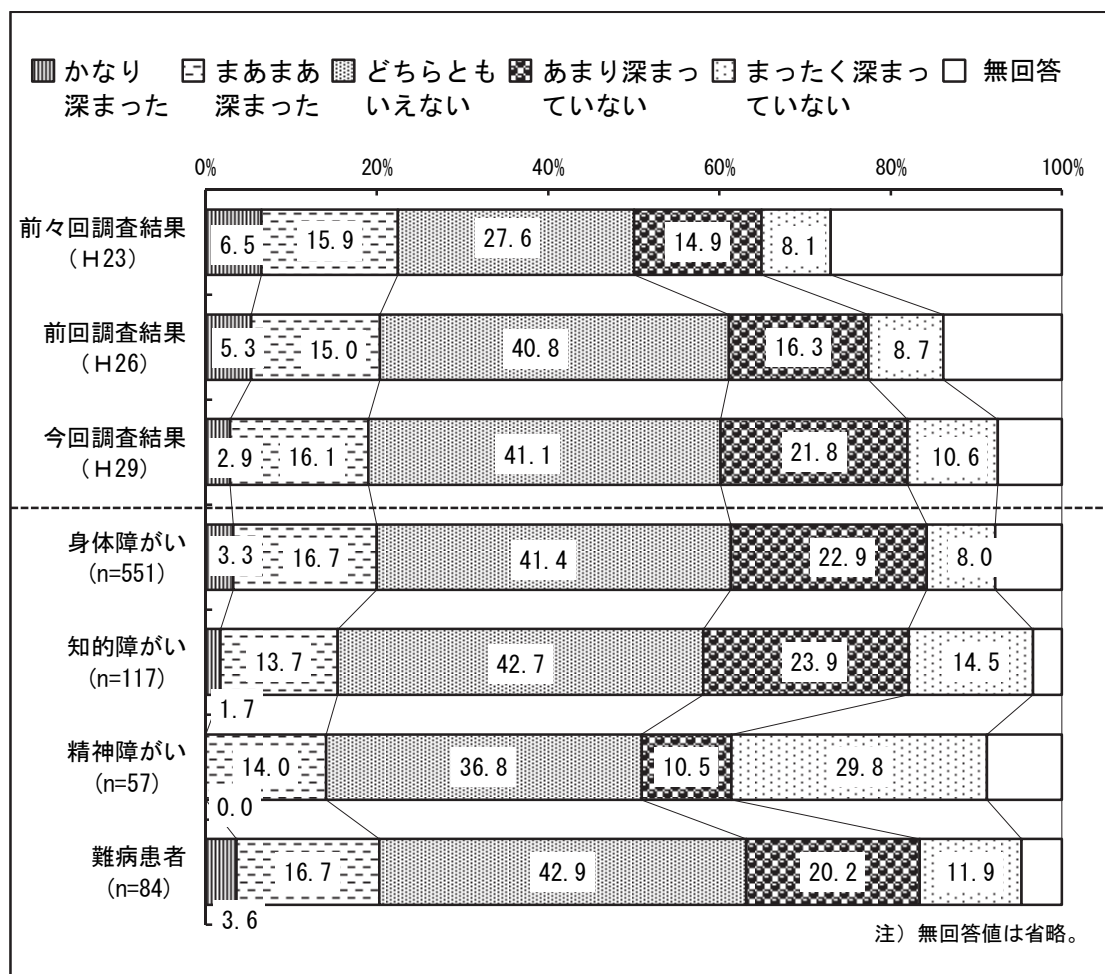
7-2 障がいのある人への理解

「深まった」が19.0%に止まる。「精神障がい」は「深まっていない」が高い。

地域社会で障がいへの理解がだんだんと深まっているかたずねたところ、「かなり深まった」が2.9%、「まあまあ深まった」が16.1%で、合わせると19.0%で前回調査、前々回調査と比べて若干減少した。

特に、「精神障がい」は障がいのある人への理解が「まったく深まっていない」が29.8%で、他の障がいと比べて高い。

図 障がいある人への理解（問26）



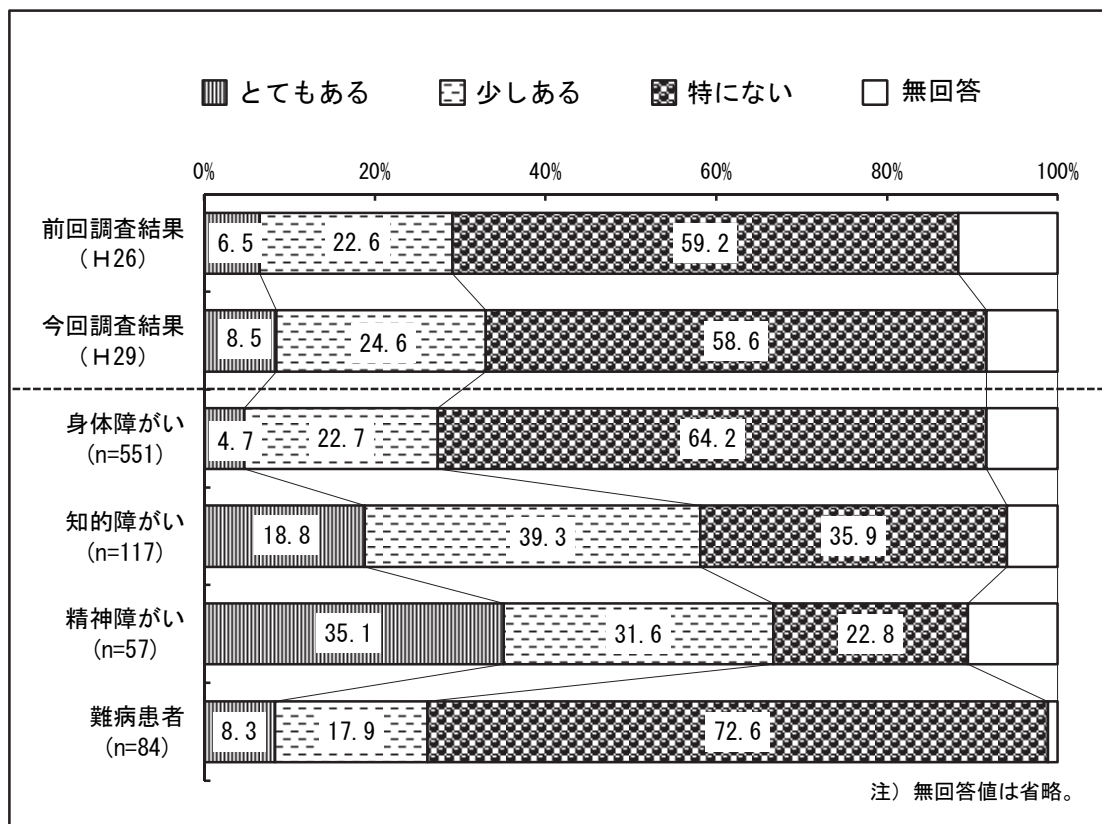
7-3 障がいのある人への差別や偏見

“精神障がい”の人は「とてもある」と「少しある」との回答が高い。

ふだんの暮らしの中で、障がいや難病があるために差別や偏見、いやな思いをした経験は、全体で「とてもある」が8.5%、「少しある」が24.6%で、合わせると33.1%が回答しており、前回調査の29.1%と比べて4ポイント増加している。

特に、“精神障がい”は「とてもある」が35.1%、「少しある」が31.6%で、他の障がいと比べて高い。“知的障がい”も「とてもある」と「少しある」との回答が比較的高い。

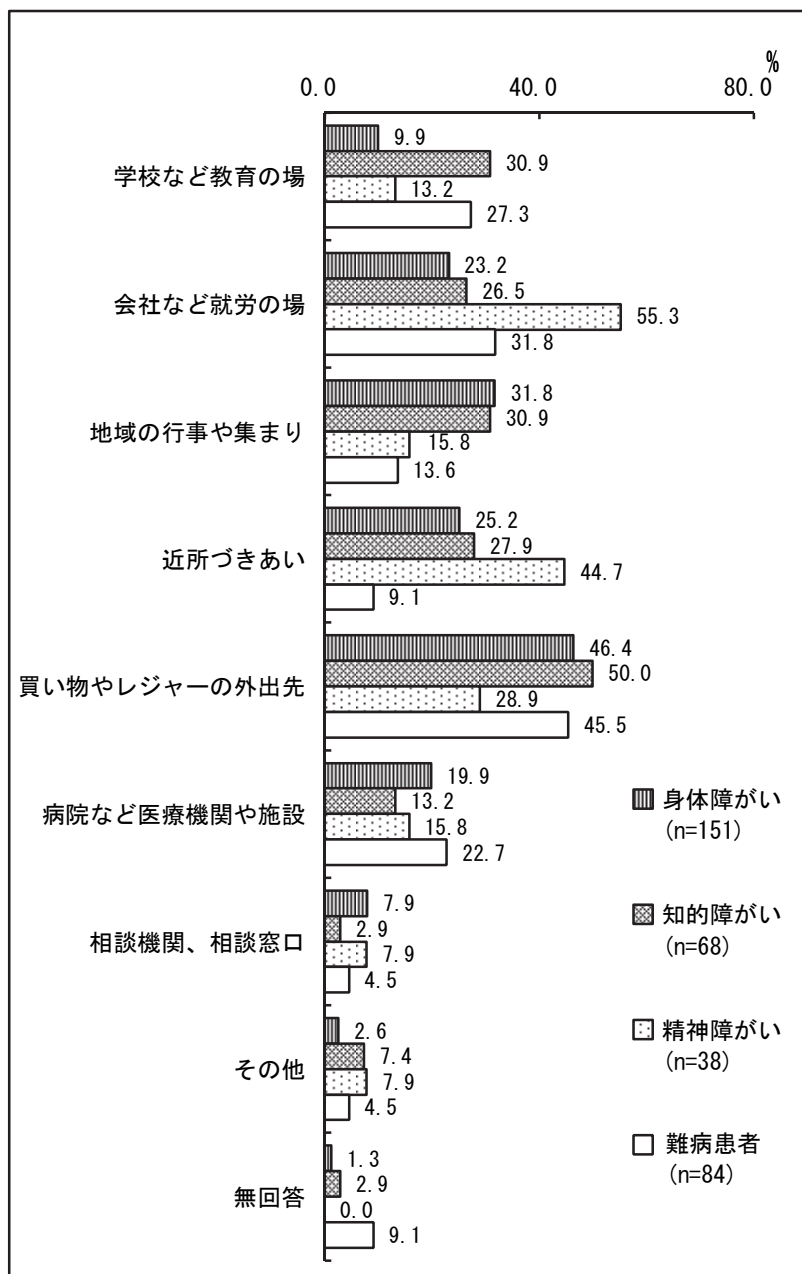
図 障がいのある人への差別や偏見（問 27）



（いやな思いを感じた場面）

いやな思いを感じた場面は、「買い物やレジャーの外出先」が“身体障がい”は 46.4%、“知的障がい”は 50.0%、“難病患者”は 45.5%で最も高い。
 “精神障がい”は「会社など就労の場」が 55.3%、「近所づきあい」が 44.7%で高い。
 “知的障がい”は「学校など教育の場」や「地域の行事や集まり」といった回答が 30.9%ずつある。

図 いやな思いを感じた場面（問 27-1） 《複数回答》



第8節 安心して暮らせる社会について

8-1 現在の暮らしと将来の希望

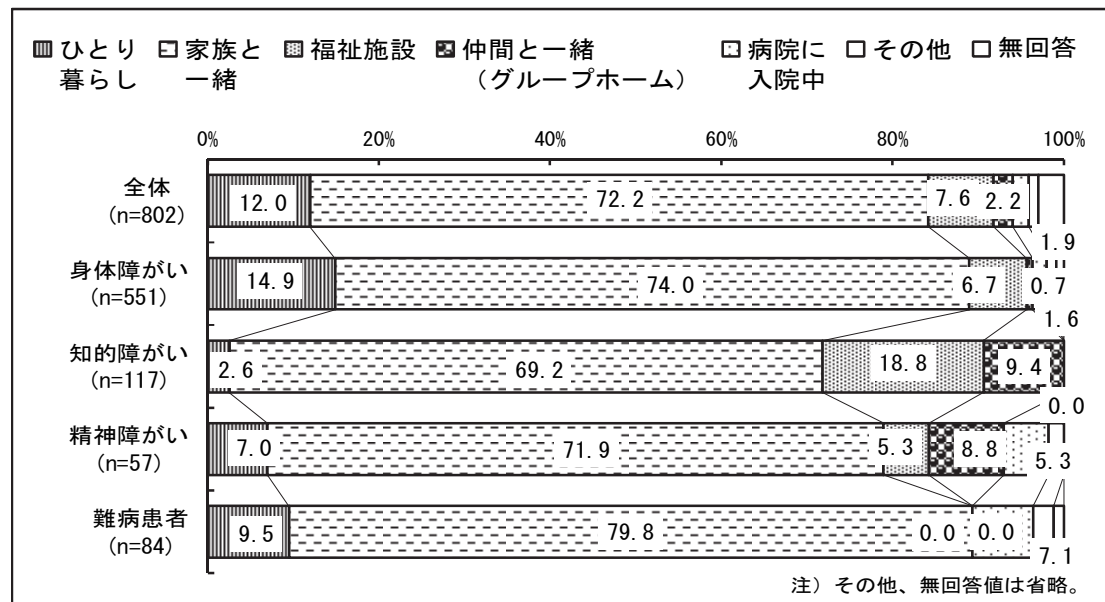
現在「家族と一緒に」が72.2%。将来の希望は“知的障がい”は「福祉施設」が3割、知的障がい”と“精神障がい”は「仲間と一緒に（グループホーム）」の希望も1割ある。

現在の暮らし方をみると、全体の72.2%が「家族と一緒に」の同居である。

将来の希望についても同様の傾向がみられるが、“知的障がい”は「福祉施設」が28.2%で希望が高い。また、“知的障がい”と“精神障がい”は「仲間と一緒に（グループホーム）」の希望も1割程度ある。

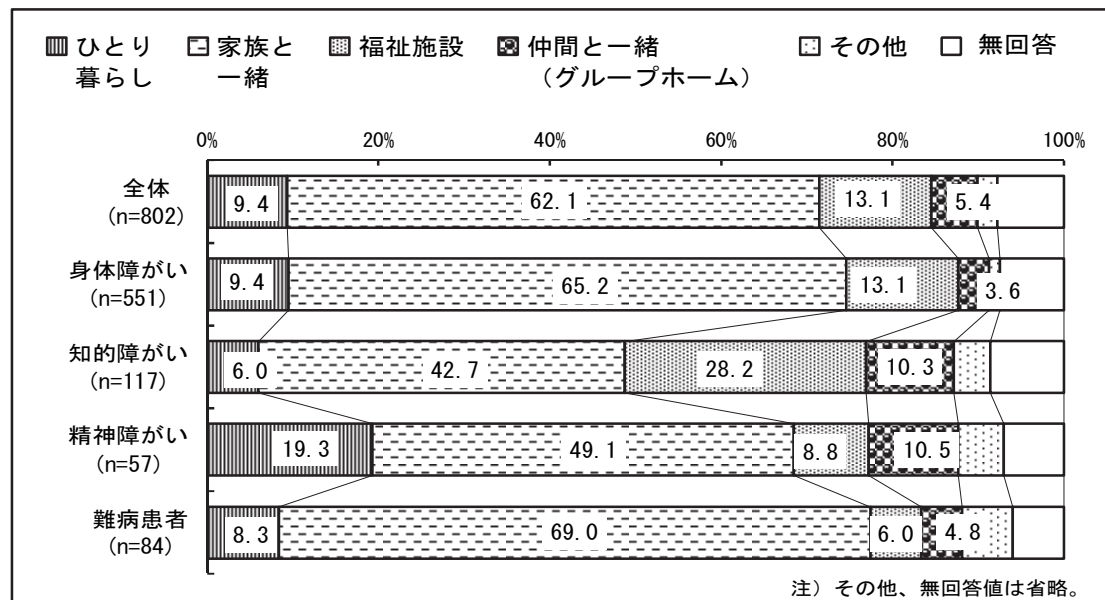
（現在の暮らし）

図 現在の暮らし（問4）



（将来の希望）

図 将来の希望（問28）



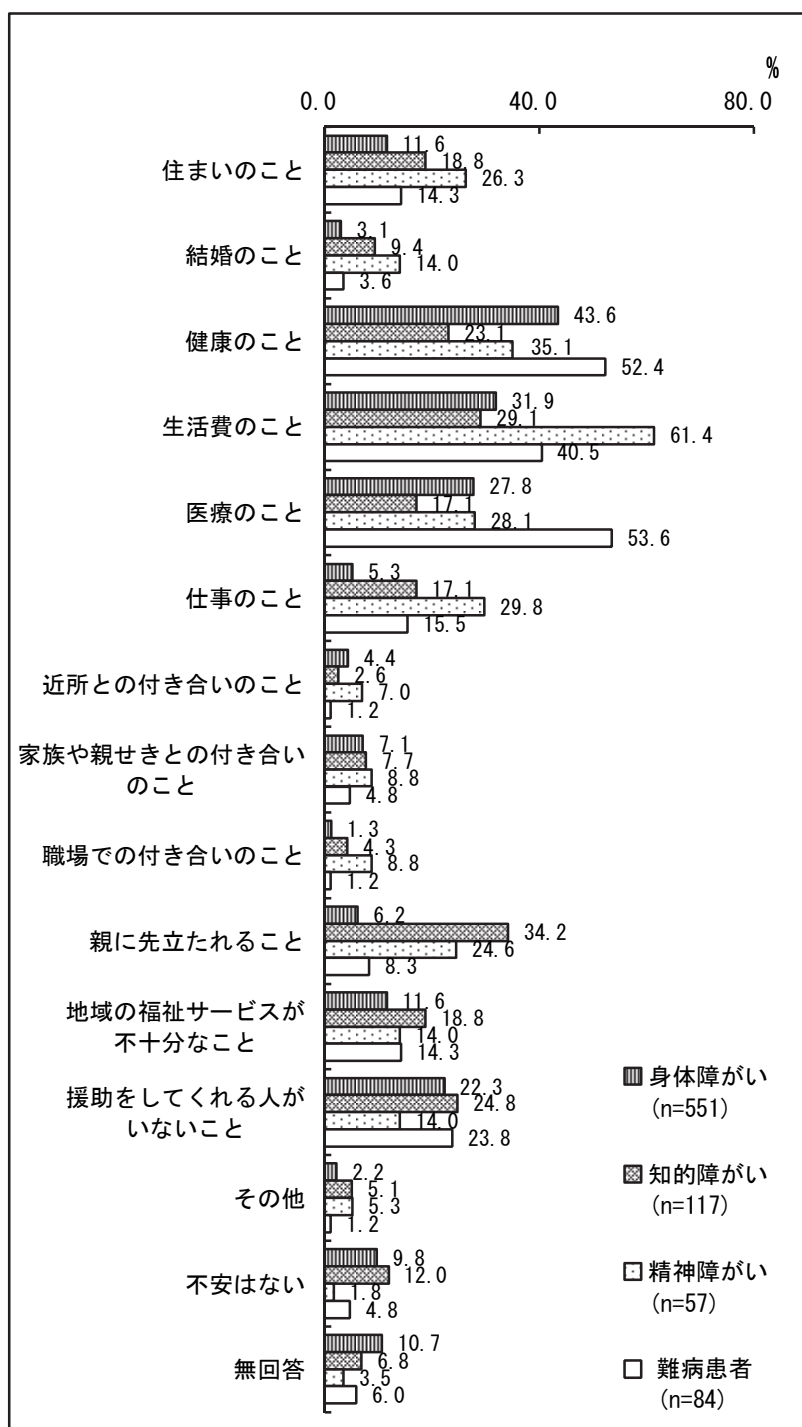
8-2 将来の生活の不安

“知的障がい”は「親に先立たれること」、「精神障がい」は「生活費のこと」が最も高い。

将来を考えたときに不安に思うことをたずねたところ、“身体障がい”は「健康のこと」が43.6%で最も高く、“難病患者”も52.4%で高い。また、“知的障がい”は「親に先立たれること」が34.2%で最も高い。“精神障がい”は「生活費のこと」が61.4%で最も高い。

“難病患者”は「医療のこと」が53.6%で最も高い。

図 将来の生活の不安（問 29） 《複数回答》



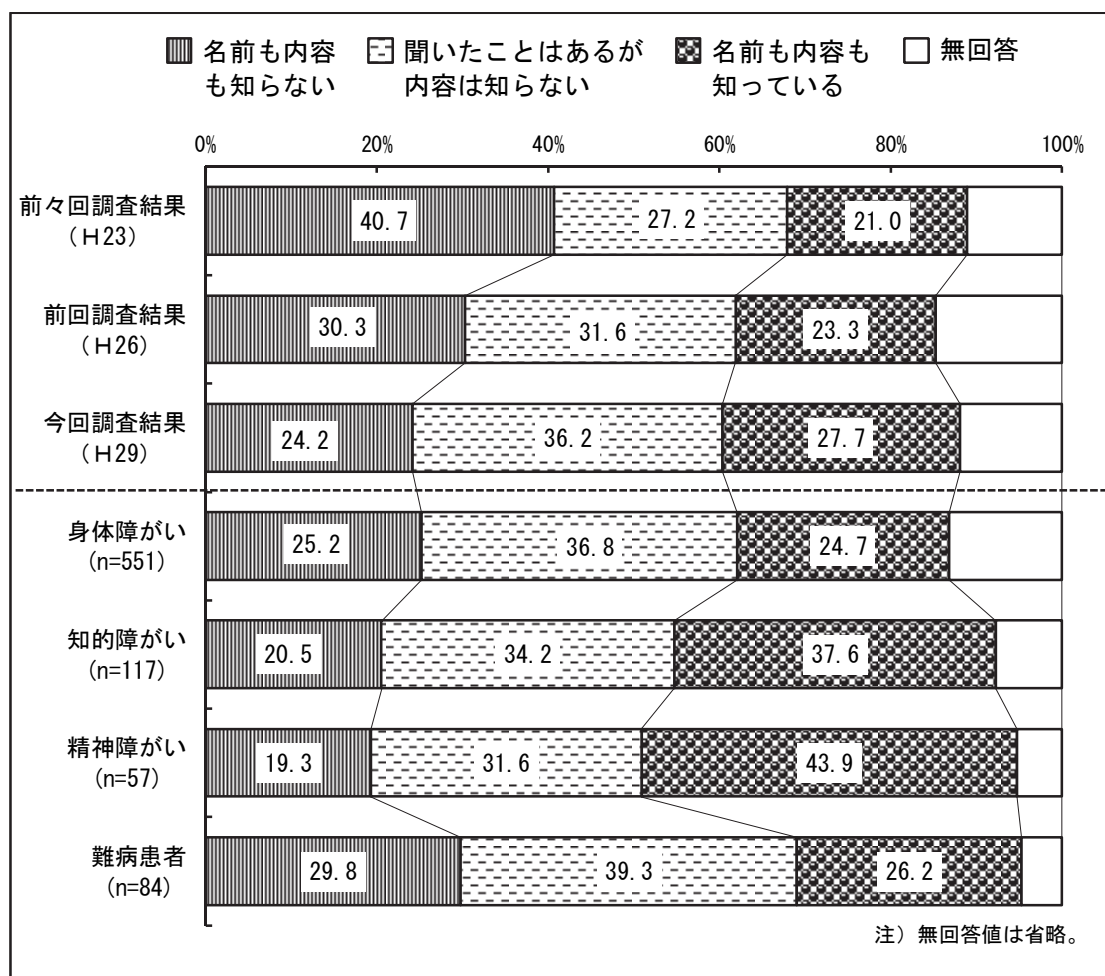
8-3 成年後見制度の理解と今後の意向

前々回調査、前回調査と比べて「名前も内容も知らない」人が減少した。

判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る成年後見制度の理解は、全体で「名前も内容も知っている」が27.7%である。

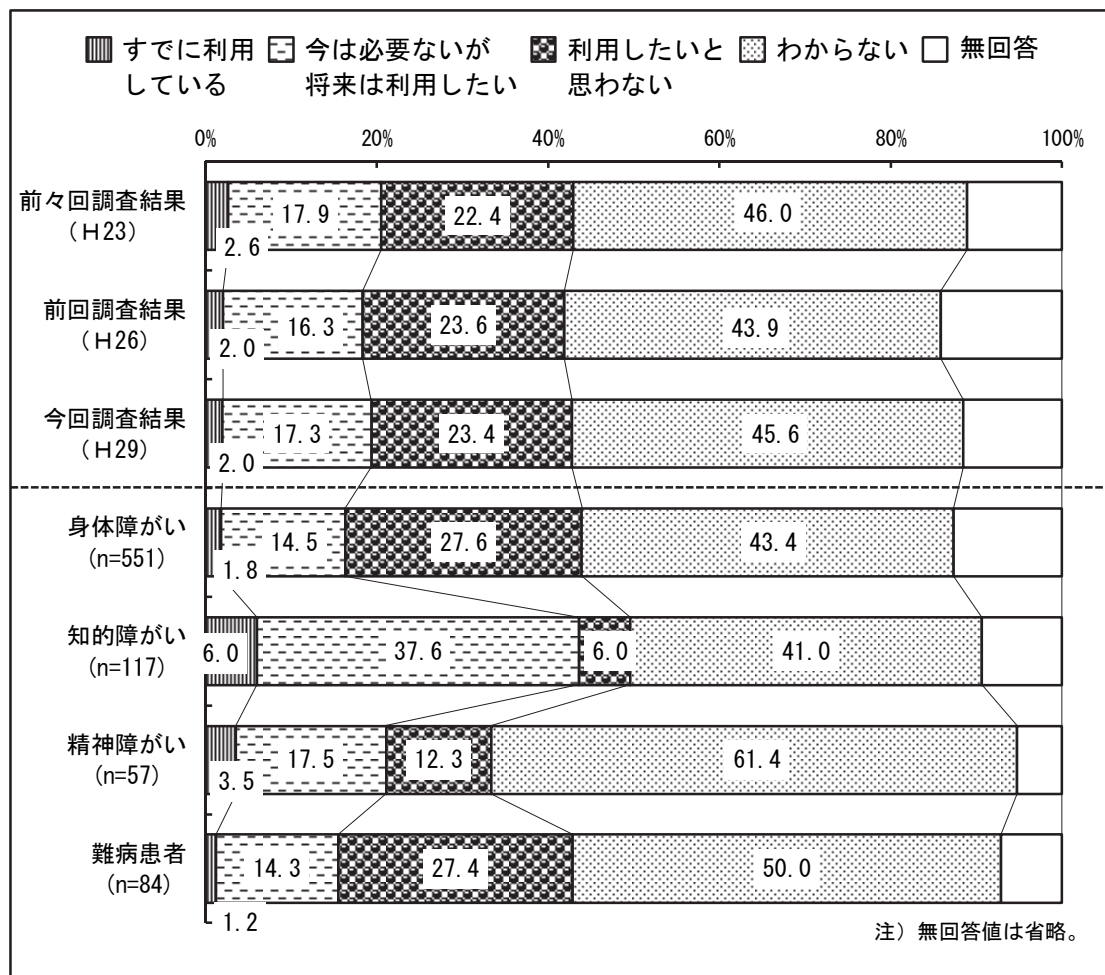
その一方で「名前も内容も知らない」は24.2%で、前回調査の30.3%、前々回調査の40.7%と比べて減少している。

図 成年後見制度の理解（問30）



成年後見制度の今後の利用意向については、全体で「すでに利用している」が2.0%、「今は必要ないが将来は利用したい」が17.3%で、前回調査、前々回調査と同様の傾向である。特に、“知的障がい”は「今は必要ないが将来は利用したい」が37.6%で高い。

図 成年後見制度の利用意向（問 31）



第9節 潮来市の障がい福祉の取り組みについて

9-1 障がい福祉の満足度

「健康相談、健康診査」や「相談窓口」の満足度が高い。

潮来市の障がい福祉の満足度をみると、「満足」と「まあ満足」を合わせた満足は、『ア. 理解を深める取り組み』が37.0%、『イ. ボランティアなどの活動』が34.6%、『ケ. 健康相談、健康診査』が37.1%、『ス. 相談窓口の使いやすさ』が41.1%で満足度が比較的高い。

図 障がい福祉の満足度（問32）

〔次ページに続く〕

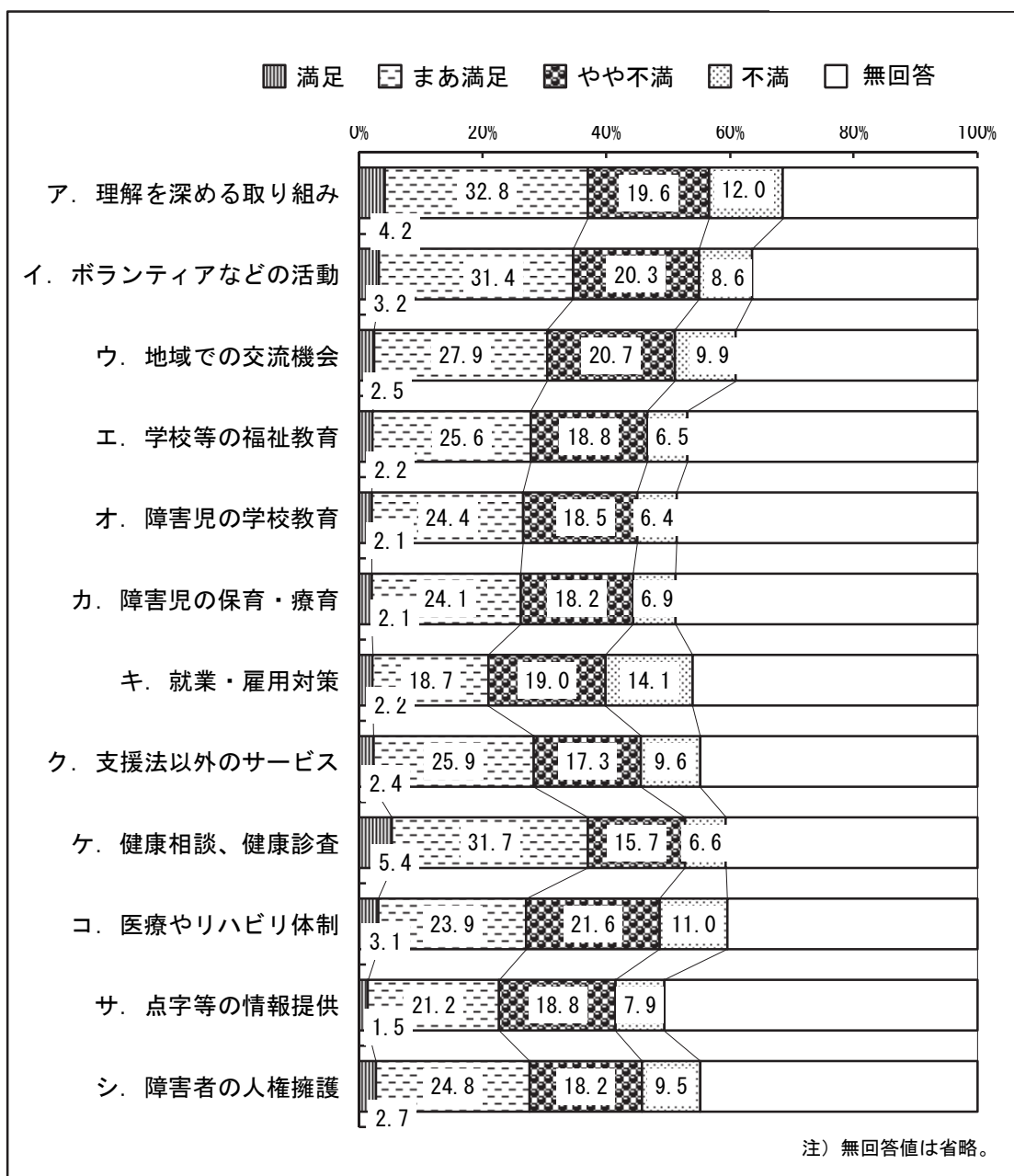
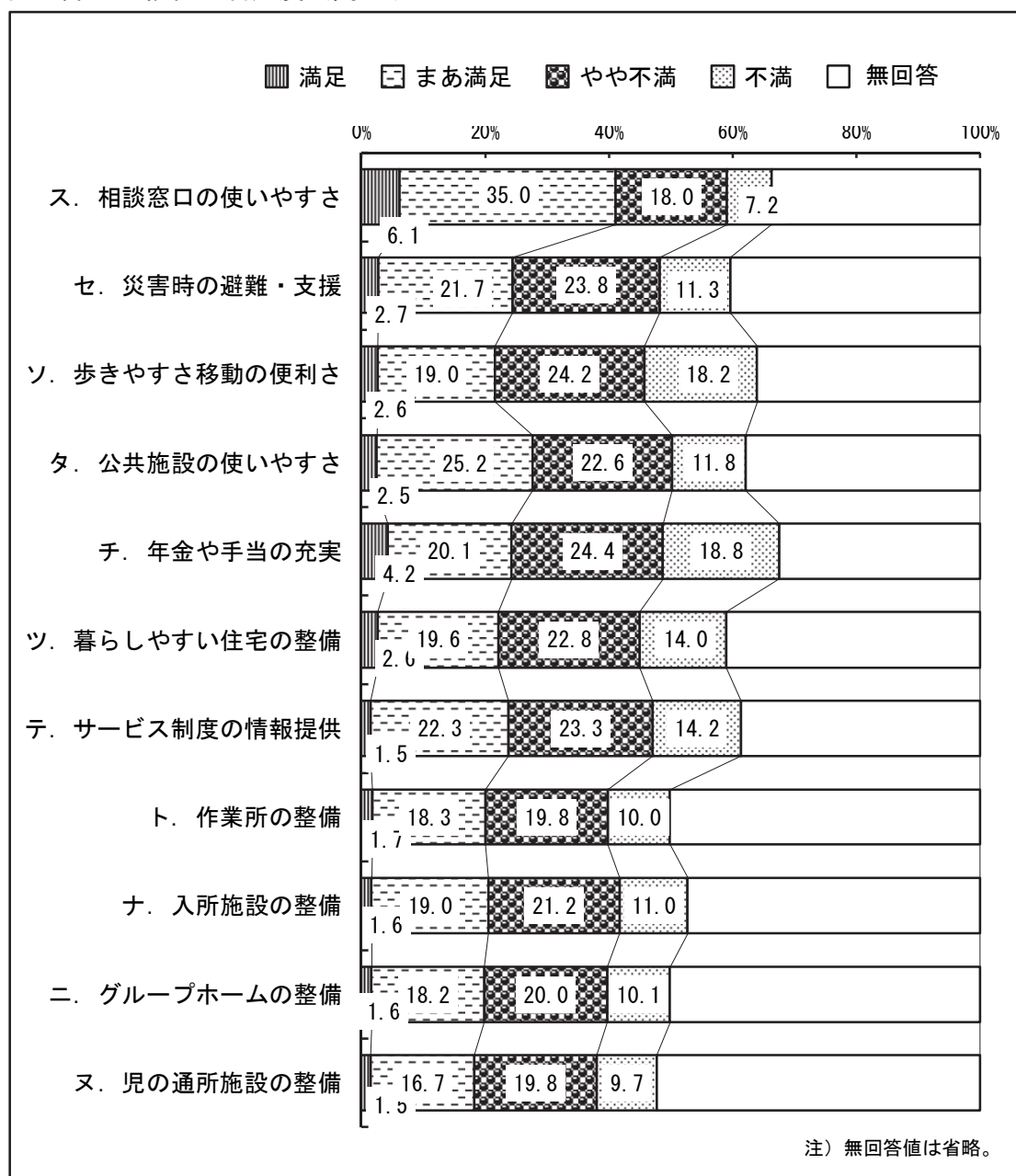


図 障がい福祉の満足度（問 32）



（参考）障がい福祉の満足度（加重平均）

潮来市の障がい福祉の取り組みについて、満足度を加重平均でみた。

その結果、「ケ. 健康相談、健康診査」が 0.23 点、「ス. 相談窓口の使いやすさ」が 0.22 点で不満を上回って満足度が高い。

その一方、「キ. 就業・雇用対策」が-0.44 点、「ソ. 歩きやすさ移動の便利さ」-0.57 点で、特に不満が高い。

図 障がい福祉の満足度（問 32）

〔次ページに続く〕

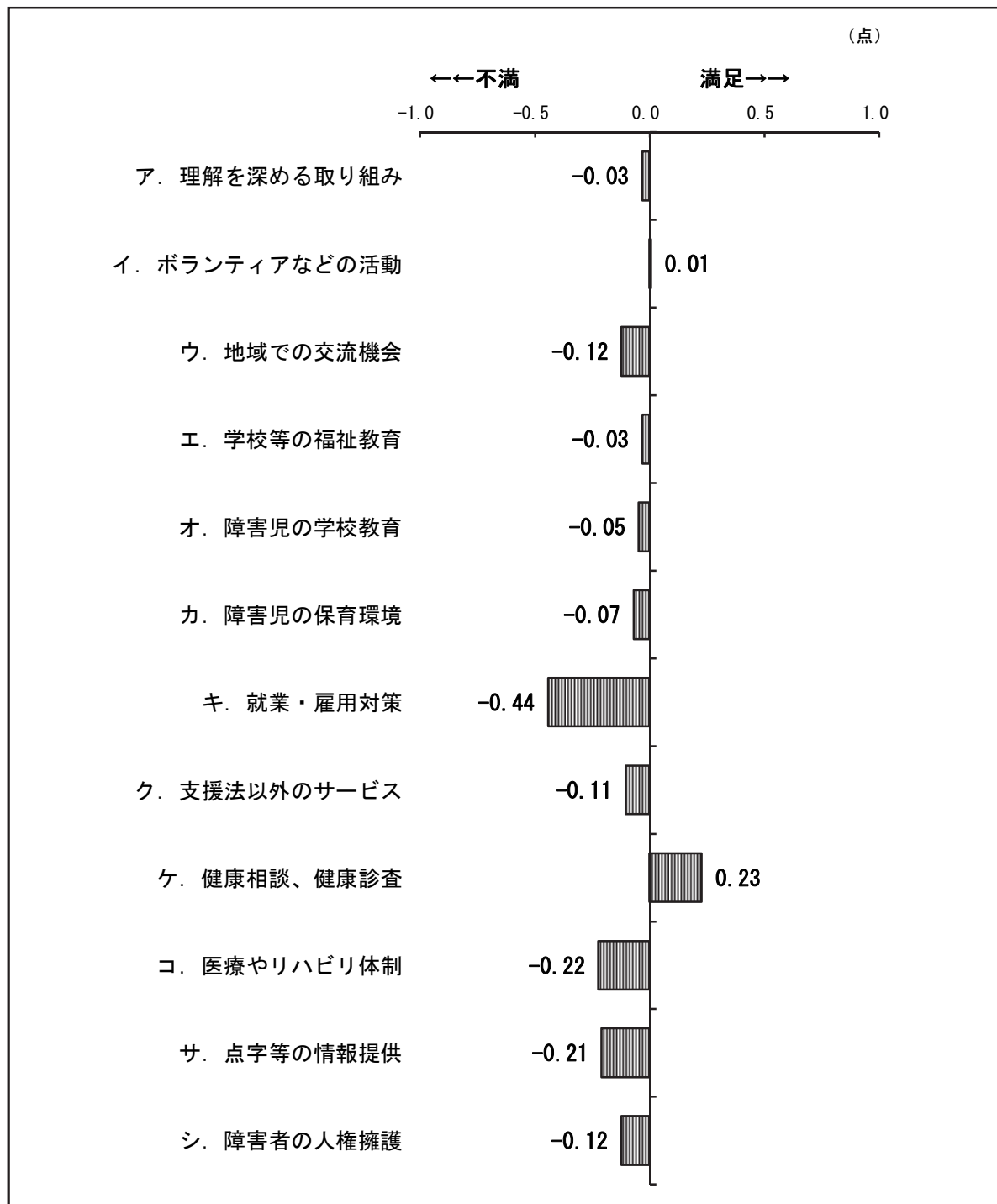
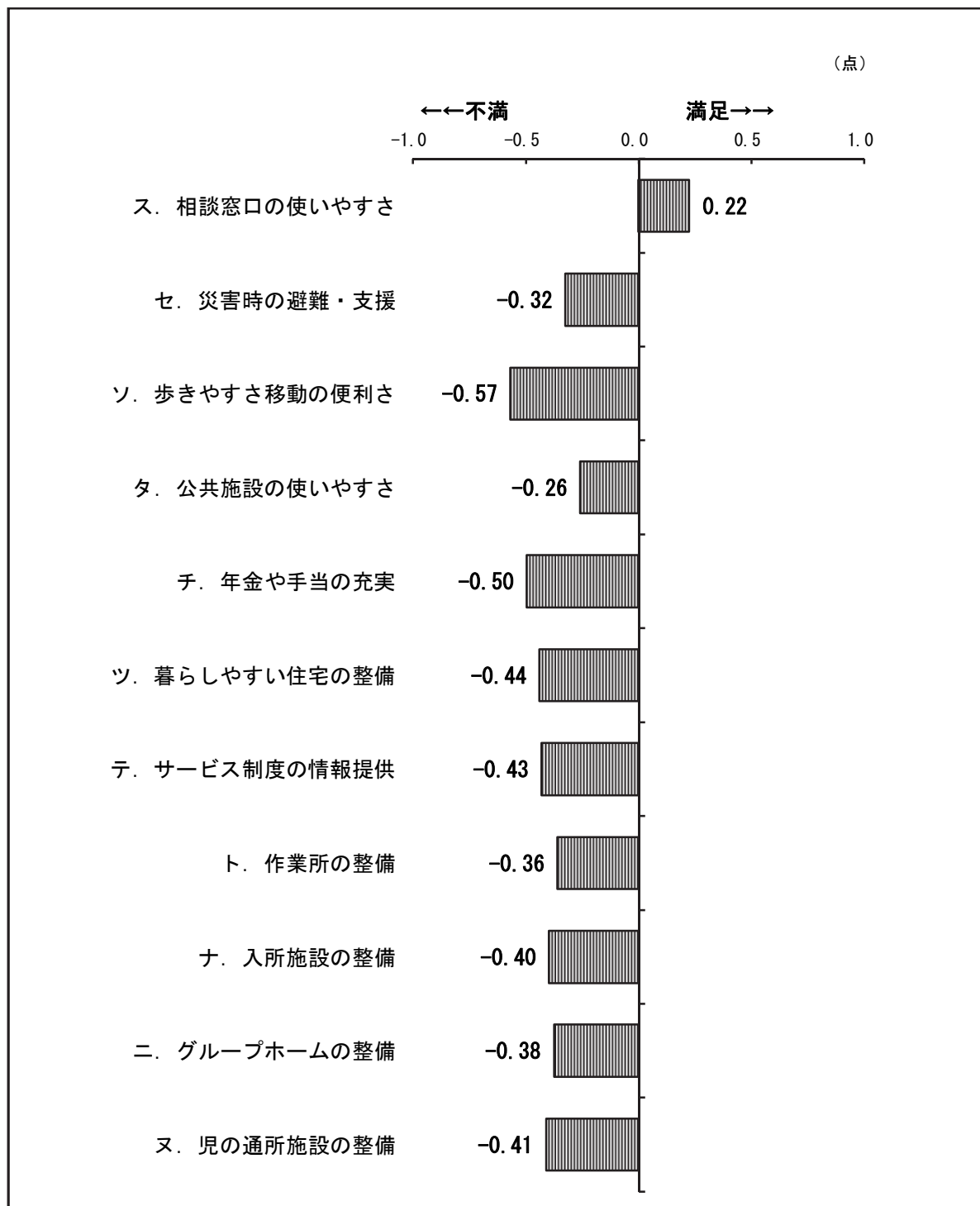


図 障がい福祉の満足度（問 32）



<「満足度」の加重平均値の算出方法>

各設問に対し「満足している」から「不満である」までの回答を加重平均値によって算出し点数化した。これは、選択肢のうち「満足」に＋2点、「まあ満足」に＋1点、「やや不満」に－1点、「不満」に－2点を便宜的に与え、回答構成から数値を求めるものである。

$$\text{点} = \frac{(\text{「満足」} \times 2 + \text{「まあ満足」} \times 1) - (\text{「やや不満」} \times -1 + \text{「不満」} \times -2)}{\text{回答者総数} - \text{「無回答」}}$$

（参考）『満足度』前回との比較

4段階評価の平均点で満足度をみると、「(ケ)健康相談、健康診査」と「(ス)相談窓口の使いやすさ」が2.60点で最も高い。前回と比較すると「(カ)障がい児への保育・療育」や「(ケ)健康相談、健康診査」の満足度が特に上がっている。その一方で、「(ク)総合支援法以外の福祉サービス」の評価が下がっている。

図 障がい福祉の満足度【4段階評価の平均点】

	項 目	平成26年 前回調査	平成29年 今回調査	評価 (H29-H26)
(ア)	障がいに対するまち全体の理解を深める取り組み	2.42	⑤ 2.43	0.01
(イ)	ボランティアなどの福祉活動	④ 2.48	③ 2.46	▲ 0.02
(ウ)	行事やイベント、スポーツなど、地域での交流機会	③ 2.53	2.38	▲ 0.15
(エ)	学校などでの福祉教育	⑤ 2.46	④ 2.44	▲ 0.02
(オ)	障がい児への学校教育	2.41	⑤ 2.43	0.02
(カ)	障がい児への保育・療育	2.11	2.42	0.31
(キ)	働く場の確保（就業・雇用対策）	2.38	2.17	▲ 0.21
(ク)	総合支援法以外の福祉サービス	① 2.67	2.38	▲ 0.29
(ケ)	健康相談、健康診査	2.37	① 2.60	0.23
(コ)	医療やリハビリの体制	2.40	2.32	▲ 0.08
(サ)	点字や手話、字幕放送などによる情報提供	2.41	2.33	▲ 0.08
(シ)	障がい者の人権擁護	⑤ 2.46	2.38	▲ 0.08
(ス)	相談窓口の使いやすさ	② 2.64	① 2.60	▲ 0.04
(セ)	災害時や緊急時の避難・支援	2.28	2.27	▲ 0.01
(ソ)	まちなかの歩きやすさ、移動の便利さ	2.09	2.09	0.00
(タ)	公共施設の使いやすさ	2.33	2.30	▲ 0.03
(チ)	生活の安定のための年金や手当の充実	2.08	2.14	0.06
(ツ)	障がいがあっても暮らしやすい住宅の整備	2.25	2.18	▲ 0.07
(テ)	障がい者福祉のサービスや制度の情報提供	2.21	2.18	▲ 0.03
(ト)	作業所の整備	2.34	2.24	▲ 0.10
(ナ)	入所施設や短期入所施設の整備	2.24	2.21	▲ 0.03
(ニ)	グループホームの整備	2.19	2.23	0.04
(ヌ)	障がい児の通所（預かり）施設の整備	2.27	2.21	▲ 0.06

＜「満足度」4段階評価の算出方法＞

設問ごとに回答した人の選択肢で、「満足」4点、「まあ満足」3点、「やや不満」2点、「不満」1点をそれぞれ与え、無回答を除いた回答者数から平均点を求めた。（前回調査と同様）

資料編

1 アンケート集計表

問1 この調査の記入者はどなたですか。[1つに○]

回答者総数=802人

1. 本人（または、本人が答え 代筆者が記入）	531 (66.2)	3. 施設・病院職員（本人の 意向を考えて）	31 (3.9)
2. 家族（本人の意向を考えな がら記入）	185 (23.1)	4. その他の方（本人の意向を 考えて）	4 (0.5)
無回答		51 (6.4)	

あなたのことについて（封筒の宛名の方について）

問2 あなたの性別は。[1つに○]

回答者総数=802人

1. 男性	371 (46.3)	2. 女性	408 (50.9)
無回答		23 (2.9)	

問3 あなたの年齢は。（平成29年6月1日現在） [1つに○]

回答者総数=802人

1. 0～6歳	11 (1.4)	5. 40～49歳	65 (8.1)
2. 7～18歳	21 (2.6)	6. 50～64歳	165 (20.6)
3. 19～29歳	48 (6.0)	7. 65～74歳	190 (23.7)
4. 30～39歳	48 (6.0)	8. 75歳以上	231 (28.8)
無回答		23 (2.9)	

問4 現在、どのように（どこで）暮らしていますか。[1つに○]

回答者総数=802人

1. ひとり暮らし	96 (12.0)	4. 仲間と一緒に（グループホーム）	18 (2.2)
2. 家族と一緒に	579 (72.2)	5. 病院に入院中	15 (1.9)
3. 福祉施設（高齢者や障がい者施設）	61 (7.6)	6. その他（ ）	9 (1.1)
無回答		24 (3.0)	

問5 主な障がいや難病（特定疾患）の治療に関して、最近6か月の医療機関の受診状況を教えてください。[1つに○]

回答者総数=802人

1. 入院・通院ともししていない	156 (19.5)	4. 入院と通院が半分くらい	27 (3.4)
2. 主に通院している	541 (67.5)	5. 主に入院している	25 (3.1)
3. 主に往診してもらっている	19 (2.4)	無回答	
		34 (4.2)	

問6 あなたは、つぎのような手帳を持っていますか。または、一般特定疾患医療受給者証を持っていますか。[あてはまるものすべてに○]

回答者総数=802人

1. 身体障害者手帳	551 (68.7)	4. 指定難病特定医療費受給者証	84 (10.5)
2. 療育手帳	117 (14.6)	5. 障害福祉サービス(児童)受給者証	4 (0.5)
3. 精神障害者保健福祉手帳	57 (7.1)	無回答	
		33 (4.1)	

▼身体障害者手帳所持者のみ。

◎身体障害者手帳の等級は。〔1つに○〕

回答者総数=551人

1. 1級	204 (37.0)	4. 4級	112 (20.3)
2. 2級	87 (15.8)	5. 5級	33 (6.0)
3. 3級	81 (14.7)	6. 6級	20 (3.6)
無回答			14 (2.5)

◎主な障がいは。〔1つに○〕

回答者総数=551人

1. 目が不自由（視覚障害）	34	（ 6.2）
2. 耳が不自由（聴覚障害・平衡機能障害）	43	（ 7.8）
3. 言葉が不自由（音声・言語・そしゃく障害）	12	（ 2.2）
4. 手足が不自由（上肢、下肢障害・体幹機能障害・脳原性運動機能障害）	263	（ 47.7）
5. 心臓、腎臓、肝臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、免疫機能に障がい（内部障害）	181	（ 32.8）
無回答	18	（ 3.3）

▼療育手帳所持者のみ。

◎療育手帳の等級は。〔1つに○〕

回答者総数=117人

1. (A) (マルA)	31 (26.5)	3. B	31 (26.5)
2. A	27 (23.1)	4. C	22 (18.8)
無回答			6 (5.1)

▼精神障害者手帳所持者のみ。

◎精神障害者保健福祉手帳の等級は。〔1つに○〕

回答者総数=57人

1. 1級	7 (12.3)	3. 3級	10 (17.5)
2. 2級	38 (66.7)		
無回答			2 (3.5)

障害福祉サービスについて

問7 あなたは「障害福祉サービス」を、利用していますか。〔1つに○〕

回答者総数=802人

1. 利用している	197 (24.6)	2. 利用していない	564 (70.3)
-----------	--------------	------------	--------------

無回答	41 (5.1)
-----	------------

「1. 利用している」方だけ

問7-1 利用している「障害福祉サービス」は、どちらですか。〔あてはまるものすべてに○〕

回答者総数=197人

1. 自宅で、食事や入浴、排せつ、家事の介助を受けるサービス	24 (12.2)
2. 外出の際、ヘルパー等が付添う移動支援のサービス	17 (8.6)
3. 施設や病院など自宅以外で、食事や入浴、排せつ等の介助を受けるサービス	58 (29.4)
4. 家族が介助できないときに、短期間だけ施設において介助を受けるサービス	26 (13.2)
5. 共同生活を行う住居で、介助や生活に関する相談等の支援を受けるサービス	23 (11.7)
6. 福祉サービス事業所に通って、生活を送るために必要な訓練や相談支援を受けるサービス	47 (23.9)
7. 福祉サービス事業所に通って、就労に必要な知識や訓練を受けるサービス	27 (13.7)
8. 施設や病院から地域での生活に移行するための相談や支援を受けるサービス	9 (4.6)
9. 緊急時の相談等の支援を受けるサービス（ひとり暮らし等）	3 (1.5)
10. 福祉サービス事業所で、放課後など日中において、活動の場の提供、訓練等の支援を受けるサービス	28 (14.2)
11. 情報提供やサービス利用の相談・調整を行うサービス	30 (15.2)

無回答	24 (12.2)
-----	-------------

問7-2 現在、利用している「障害福祉サービス」の満足度はいかがですか。〔1つに○〕

回答者総数=197人

1. 満足	47 (23.9)	3. やや不満	39 (19.8)
2. ほぼ満足	92 (46.7)	4. 不満	7 (3.6)

無回答	12 (6.1)
-----	------------

▼問7で「2. 利用していない」方だけ、お答えください。

問7-3 サービスを「利用していない」主な理由は。〔1つに○〕

回答者総数=564人

1. サービスを利用する必要がない	334 (59.2)	3. 利用する方法がわからない	91 (16.1)
2. 自分にあったサービスがない	60 (10.6)	4. その他	56 (9.9)

無回答	23 (4.1)
-----	------------

すべての方にかがいます

問8 現在、「障害福祉サービス」を利用している、利用していないに関わらず、今後（今後も）、利用したいサービスはどちらですか。〔あてはまるものすべてに○〕 回答者総数=802人

1. 自宅で、食事や入浴、排せつ、家事の介助を受けるサービス	168 (20.9)
2. 外出の際、ヘルパー等が付添う移動支援のサービス	153 (19.1)
3. 施設や病院など自宅以外で、食事や入浴、排せつ等の介助を受けるサービス	130 (16.2)
4. 家族が介助できないときに、短期間だけ施設において介助を受けるサービス	259 (32.3)
5. 共同生活を行う住居で、介助や生活に関する相談等の支援を受けるサービス	74 (9.2)
6. 福祉サービス事業所に通って、生活を送るために必要な訓練や相談支援を受けるサービス	116 (14.5)
7. 福祉サービス事業所に通って、就労に必要な知識や訓練を受けるサービス	66 (8.2)
8. 施設や病院から地域での生活に移行するための相談や支援を受けるサービス	64 (8.0)
9. 緊急時の相談等の支援を受けるサービス（ひとり暮らし等）	104 (13.0)
10. 福祉サービス事業所で、放課後など日中において、活動の場の提供、訓練等の支援を受けるサービス	48 (6.0)
11. 情報提供やサービス利用の相談・調整を行うサービス	248 (30.9)
無回答	205 (25.6)

教育や就労、社会参加について

問9 あなたは、平日の昼間、主にどのように過ごしていますか。〔1つに○〕 回答者総数=802人

＜児童・生徒の方＞		35 (4.4)
1. 幼稚園や保育園、障害児通園施設、学校などに通っている	} → 問11へ	
2. どこにも通っていない		24 (3.0)
＜働いている方＞		155 (19.3)
3. 一般の企業等で働いている（自営も含む）	} → 問12-1、-2	
4. 就労の訓練を受けながら働いている		24 (3.0)
＜上記に該当しない方＞		51 (6.4)
5. 家事や子育てをしている	} → 問10-1	56 (7.0)
6. 趣味やスポーツをして過ごしている		47 (5.9)
7. 治療やリハビリを受けている		61 (7.6)
8. 事業所（作業所）やデイケアに行っている		26 (3.2)
9. 家で介護を受けている		56 (7.0)
10. 施設に入所している		17 (2.1)
11. 病院に入院している		141 (17.6)
12. とくに何もしていない		24 (3.0)
13. その他（ ）		85 (10.6)
無回答		

▼問9で<上記に該当しない>と答えた方

問10 平日の昼間、どのように過ごしたいと思いますか。〔1つに○〕

回答者総数=479人

1. 学校などに通いたい	1 (0.2)	4. 今の生活を続けたい	243 (50.7)
2. 一般の企業等で働きたい	7 (1.5)	5. とくにない	106 (22.1)
3. 就労の訓練を受けながら働きたい	21 (4.4)	6. その他 ()	24 (5.0)

無回答 77 (16.1)

▼問9で<児童・生徒>と答えた方

問11 保育や教育について、どのようなことを望みますか。〔あてはまるものすべてに○〕

回答者総数=59人

1. とくにない(だいたい満足)	10 (16.9)
2. 通学、通園時の利便性の向上	8 (13.6)
3. 園や学校の障がい特性に応じた設備の配慮	10 (16.9)
4. 障がいのない児童生徒とふれあう機会の充実	7 (11.9)
5. 先生や保護者の障がいや病気に対する理解	18 (30.5)
6. 周りの子どもたちの障がいや病気に対する理解	15 (25.4)
7. 地域の仲間づくりや居場所の整備	13 (22.0)
8. 放課後や長期休暇中に利用できるサービスの充実	16 (27.1)
9. 卒業後の情報や進路指導の充実	26 (44.1)
10. 保育士や教職員の専門性の向上	18 (30.5)
11. その他	1 (1.7)

無回答 18 (30.5)

▼問9で<働いている>と答えた方

問12-1 働くことについてどのように思っていますか。〔1つに○〕

回答者総数=179人

1. このまま働き続けたい	147 (82.1)	3. できれば働きたくない	15 (8.4)
2. できれば仕事を変えたい	13 (7.3)		

無回答 4 (2.2)

問12-2 仕事や働く上でどのように感じていますか。〔あてはまるものすべてに○〕

回答者総数=179人

1. 通勤手段の確保	56 (31.3)	7. 就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	57 (31.8)
2. バリアフリー等の職場内の配慮	45 (25.1)	8. 障がいの程度にあった職種の増加	81 (45.3)
3. 短時間勤務や勤務日数など	55 (30.7)	9. 職場内での相談対応や支援	50 (27.9)
4. 在宅勤務の拡充	18 (10.1)	10. その他	4 (2.2)
5. 企業の障がい者雇用に対する理解	93 (52.0)	11. わからない	10 (5.6)
6. 障がいに対する上司や同僚の理解	102 (57.0)		57 (31.8)

無回答 14 (7.8)

すべての方にうかがいます

外出や社会参加について

問13 あなたは、ひとりで外出できますか。〔1つに○〕

回答者総数=802人

- | | | | |
|------------------|-------------|-----------|-------------|
| 1. ひとりで外出できる | 447 (55.7) | 3. 外出できない | 123 (15.3) |
| 2. 付き添いがあれば外出できる | 218 (27.2) | | |

無回答 14 (1.7)

問14 通勤・通学、通所、レジャーなどで、どのくらい外出しますか。〔1つに○〕

回答者総数=802人

- | | | | |
|--------------|-------------|--------------------|-------------|
| 1. ほとんど毎日 | 280 (34.9) | 3. 月に数日くらい | 196 (24.4) |
| 2. 週に2～3日くらい | 155 (19.3) | 4. ほとんどしない(外出できない) | 124 (15.5) |

無回答 47 (5.9)

問15 今よりも外出する機会を増やしたいと思いますか。〔1つに○〕

回答者総数=802人

- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-----------|
| 1. もっと増やしたい | 164 (20.4) | 3. もっと減らしたい | 14 (1.7) |
| 2.今のままでよい | 568 (70.8) | | |

無回答 56 (7.0)

問16 あなたは、日ごろ、楽しみや生きがいを持って生活していると思いますか。〔1つに○〕

回答者総数=802人

- | | | | |
|-----------------|-------------|-------------------|-------------|
| 1. そう思う | 209 (26.1) | 3. どちらかといえばそう思わない | 161 (20.1) |
| 2. どちらかといえばそう思う | 298 (37.2) | 4. そう思わない | 96 (12.0) |

無回答 38 (4.7)

問17 あなたは、障がいのある人が支援を受けるだけでなく、自分ができる社会貢献活動（ボランティアなど）に取り組むことについてどうお考えですか。〔1つに○〕

回答者総数=802人

- | | | | |
|-----------------|-------------|-----------|-------------|
| 1. 積極的に取り組むべき | 55 (6.9) | 3. 難しいと思う | 249 (31.0) |
| 2. 条件が合えば取り組むべき | 272 (33.9) | 4. わからない | 167 (20.8) |

無回答 59 (7.4)

問18 あなたは、現在、文化活動やスポーツ活動などに参加していますか。〔1つに○〕

回答者総数=802人

- | | | | |
|----------------|-------------|------------|-------------|
| 1. 参加している | 121 (15.1) | 3. 参加していない | 554 (69.1) |
| 2. 参加したいが、できない | 100 (12.5) | | |

無回答 27 (3.4)

問19 文化活動やスポーツ活動などに参加しやすくなるには、どのようなことが大切だと思いますか。〔あてはまるものすべてに○〕

回答者総数=802人

1. 移動手段が確保されていること	310	(38.7)
2. 施設が障がいや病気のある人に配慮されていること	256	(31.9)
3. 障がいや病気のある人に配慮された活動や講座となっていること	209	(26.1)
4. 一緒に付き添ってくれる人がいること	256	(31.9)
5. 参加できる活動の情報が伝わっていること	251	(31.3)
6. 周囲の人に障がいや病気のある人に対する理解が得られること	299	(37.3)
7. 同じような障がいや病気のある仲間がいること	256	(31.9)
8. その他	37	(4.6)
無回答	143	(17.8)

相談・情報提供について

問20 相談ごとがあったとき、まず、どこに相談して情報を得ていますか。〔3つまで○〕

回答者総数=802人

1. 市役所の窓口	338	(42.1)	8. 知的障害者相談員	12	(1.5)
2. 相談支援事業所	71	(8.9)	9. 民生委員	47	(5.9)
3. 障害福祉サービスを提供する事業所	128	(16.0)	10. インターネットの書き込み	48	(6.0)
4. 病院・医院	311	(38.8)	11. 学校の先生	15	(1.9)
5. 保健センター	55	(6.9)	12. 保健所や福祉相談センター	47	(5.9)
6. 社会福祉協議会	106	(13.2)	13. 障がいや病気に関係した団体など	28	(3.5)
7. 身体障害者相談員	32	(4.0)	14. その他 ()	69	(8.6)
無回答				79	(9.9)

問21 福祉サービスや日ごろの生活について、必要な情報を集めたり、相談したりするときに困ることがありますか。〔あてはまるものすべてに○〕

回答者総数=802人

1. どこに相談すればよいかわからない	258	(32.2)
2. 近所に相談するところがない	78	(9.7)
3. しっかりと相談にのってもらえるのか不安	197	(24.6)
4. 障がいや病気に対応した相談体制や情報がない	166	(20.7)
5. 相談先で、周りの人にまで相談内容が聞こえてしまう	68	(8.5)
6. とくに困ることはない	282	(35.2)
無回答	101	(12.6)

災害対策について

問22 災害が発生した時に、不安に思うことがありますか。

〔あてはまるものすべてに○〕

回答者総数=802人

1. 投薬や治療が受けられない	340	(42.4)
2. 補装具の使用が困難になる	65	(8.1)
3. 補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	84	(10.5)
4. 救助を求めることができない	120	(15.0)
5. 安全なところまで、迅速に避難することができない	310	(38.7)
6. 被害状況、避難場所などの情報が入手できない	144	(18.0)
7. 周囲とコミュニケーションがとれない	130	(16.2)
8. 避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安	391	(48.8)
9. とくにない	130	(16.2)
10. その他（ ）	12	(1.5)
無回答	59	(7.4)

問23 家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、近所であなたを助けてくれる人はいますか。

〔1つに○〕

回答者総数=802人

1. いる	243	(30.3)	3. わからない	239	(29.8)
2. いない	237	(29.6)			
			無回答	83	(10.3)

問24 日ごろから災害に備えていることがありますか。〔あてはまるものすべてに○〕 回答者総数=802人

1. 避難場所や避難経路の確認	163	(20.3)
2. 自主防災組織（区）や民生委員などと避難方法を確認	46	(5.7)
3. 避難を手助けしてくれる人の確保	63	(7.9)
4. 非常用持出袋の用意	112	(14.0)
5. 災害に関する情報の入手	81	(10.1)
6. 緊急連絡先など家族や友人との連絡手段	251	(31.3)
7. とくにない	304	(37.9)
8. その他（ ）	11	(1.4)
無回答	82	(10.2)

障害者差別解消法について

問25 障害者差別解消法は、障がいのある人への「不当な差別的取扱い」を禁止し、障がいのある人が困らないように役所や会社・お店などに「合理的配慮の提供」を求めています。あなたは、この法律を知っていますか。〔1つに○〕

回答者総数=802人

1. だいたい内容は知っている	92 (11.5)	3. 知らなかった	444 (55.4)
2. 聞いたことはある	216 (26.9)		

無回答 50 (6.2)

問26 あなたは、地域社会で障がいへの理解がだんだんと深まっていると感じますか。〔1つに○〕

回答者総数=802人

1. かなり深まった	23 (2.9)	4. あまり深まっていない	175 (21.8)
2. まあまあ深まった	129 (16.1)	5. まったく深まっていない	85 (10.6)
3. どちらともいえない	330 (41.1)		

無回答 60 (7.5)

問27 ふだんの暮らしの中で、障がいや難病があるために差別や偏見、いやな思いをした経験がありますか。〔1つに○〕

回答者総数=802人

1. とてもある	68 (8.5)	3. とくにない	470 (58.6)
2. 少しある	197 (24.6)		

無回答 67 (8.4)

▼ 問27で「1」か「2」を答えた方。

問27-1 いやな思いを感じたのは、どのような場面ですか。〔3つまで○〕

回答者総数=265人

1. 学校など教育の場	43 (16.2)	5. 買い物やレジャーの外出先	116 (43.8)
2. 会社など就労の場	78 (29.4)	6. 病院など医療機関や施設	46 (17.4)
3. 地域の行事や集まり	72 (27.2)	7. 相談機関、相談窓口	18 (6.8)
4. 近所づきあい	68 (25.7)	8. その他 ()	10 (3.8)

無回答 5 (1.9)

安心して暮らせる社会について

問28 あなたは、将来は、どのように（どこで）暮らしたいと思いますか。〔1つに○〕 回答者総数=802人

1. ひとり暮らしをしたい	75 (9.4)	4. 仲間と一緒に（グループホーム）に暮らしたい	43 (5.4)
2. 家族と一緒に暮らしたい	498 (62.1)	5. その他（ ）	19 (2.4)
3. 福祉施設（高齢者や障がい者施設）で暮らしたい	105 (13.1)		
無回答		62 (7.7)	

問29 あなたの将来を考えたとき、とくに不安に思うことがありますか。〔3つまで○〕

回答者総数=802人

1. 住まいのこと	110 (13.7)	9. 職場での付き合いのこと	18 (2.2)
2. 結婚のこと	40 (5.0)	10. 親に先立たれること	84 (10.5)
3. 健康のこと	334 (41.6)	11. この地域で生活を続けていくための福祉サービスが不十分なこと	100 (12.5)
4. 生活費のこと	274 (34.2)	12. 身のまわりの援助をしてくれる人がいるかどうかかわからないこと	171 (21.3)
5. 医療のこと	226 (28.2)	13. その他（ ）	21 (2.6)
6. 仕事のこと	79 (9.9)	14. 不安はない	73 (9.1)
7. 近所との付き合いのこと	34 (4.2)		
8. 家族や親せきとの付き合いのこと	55 (6.9)		
無回答		78 (9.7)	

問30 知的障がいや精神障がいなどの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る成年後見制度があります。あなたは、この制度をご存知ですか。〔1つに○〕 回答者総数=802人

1. 名前も内容も知っている	194	(24.2)
2. 名前は聞いたことがあるが内容は知らない	290	(36.2)
3. 名前も内容も知らない	222	(27.7)
無回答	96	(12.0)

問31 あなたは、成年後見制度を利用したいと思いますか。〔1つに○〕

回答者総数=802人

1. すでに利用している	16	(2.0)
2. 今は必要ないが、将来は利用したい	139	(17.3)
3. 利用したいと思わない	188	(23.4)
4. わからない	366	(45.6)
無回答	93	(11.6)

潮来市障がい福祉の取り組みについて

問32 潮来市の障がい福祉への取り組みについて、あなたの「満足度」にあてはまるものを、それぞれ○をつけてください。

回答者総数=802人

	満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である	無回答
ア. 障がいに対するまち全体の理解を深める取り組み	34 (4.2)	263 (32.8)	157 (19.6)	96 (12.0)	252 (31.4)
イ. ボランティアなどの福祉活動	26 (3.2)	252 (31.4)	163 (20.3)	69 (8.6)	292 (36.4)
ウ. 行事やイベント、スポーツなど、地域での交流機会	20 (2.5)	224 (27.9)	166 (20.7)	79 (9.9)	313 (39.0)
エ. 学校などでの福祉教育	18 (2.2)	205 (25.6)	151 (18.8)	52 (6.5)	376 (46.9)
オ. 障がい児への学校教育	17 (2.1)	196 (24.4)	148 (18.5)	51 (6.4)	390 (48.6)
カ. 障がい児への保育・療育	17 (2.1)	193 (24.1)	146 (18.2)	55 (6.9)	391 (48.8)
キ. 働く場の確保（就業・雇用対策）	18 (2.2)	150 (18.7)	152 (19.0)	113 (14.1)	369 (46.0)
ク. 総合支援法以外の福祉サービス（自宅で受けられる支援など）	19 (2.4)	208 (25.9)	139 (17.3)	77 (9.6)	359 (44.8)
ケ. 健康相談、健康診査など	43 (5.4)	254 (31.7)	126 (15.7)	53 (6.6)	326 (40.6)
コ. 医療やリハビリの体制	25 (3.1)	192 (23.9)	173 (21.6)	88 (11.0)	324 (40.4)
サ. 点字や手話、字幕放送などによる情報提供	12 (1.5)	170 (21.2)	151 (18.8)	63 (7.9)	406 (50.6)
シ. 障がい者の人権擁護	22 (2.7)	199 (24.8)	146 (18.2)	76 (9.5)	359 (44.8)

(つぎのページに続きます。)

(続き)

	満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である	無回答
ス. 相談窓口の使いやすさ	49 (6.1)	281 (35.0)	144 (18.0)	58 (7.2)	270 (33.7)
セ. 災害時や緊急時の避難・支援	22 (2.7)	174 (21.7)	191 (23.8)	91 (11.3)	324 (40.4)
ソ. まちなかの歩きやすさ、移動の便利さ	21 (2.6)	152 (19.0)	194 (24.2)	146 (18.2)	289 (36.0)
タ. 公共施設の使いやすさ	20 (2.5)	202 (25.2)	181 (22.6)	95 (11.8)	304 (37.9)
チ. 生活の安定のための年金や手当の充実	34 (4.2)	161 (20.1)	196 (24.4)	151 (18.8)	260 (32.4)
ツ. 障がいがあっても暮らしやすい住宅の整備	21 (2.6)	157 (19.6)	183 (22.8)	112 (14.0)	329 (41.0)
テ. 障がい者福祉のサービスや制度の情報提供	12 (1.5)	179 (22.3)	187 (23.3)	114 (14.2)	310 38.7 ()
ト. 作業所の整備	14 (1.7)	147 (18.3)	159 (19.8)	80 (10.0)	402 (50.1)
ナ. 入所施設や短期入所施設の整備	13 (1.6)	152 (19.0)	170 (21.2)	88 (11.0)	379 (47.3)
ニ. グループホームの整備	13 (1.6)	146 (18.2)	160 (20.0)	81 (10.1)	402 (50.1)
ヌ. 障がい児の通所（あずかり）施設の整備	12 (1.5)	134 (16.7)	159 (19.8)	78 (9.7)	419 (52.2)

2 自由記述

アンケート調査では、障がい福祉に関するご意見、ご要望を把握する自由記入欄を設けた。主な意見の内容は以下のとおり。（主な意見は原文のままですが、誤字脱字の訂正、個人名の記述など一部抜粋しています。）

【身体障害者手帳所持者】

主な意見	性別	年齢
◇ アンケートの対象者とは別に発達障害の子供がいます。毎月、薬をもらう為につくば市まで通っています。近くの病院で処方箋だけでも書いてもらえるようになったら助かります。月1～2回でもいいので専門外来が出来たらうれしいです。よろしくお願い致します。	女性	0～6歳
◇ 障がいの手当を増やして欲しい。障がい枠で雇用を増やして欲しい。身体障害手帳の手続きをする期間を短くして欲しい。医療費（働いている人でも）平等に貰えるように見直しの検討。障がい福祉の窓口を土曜日の午前中もやって欲しい。障がいの年金を増やして欲しい。市役所の対応（窓口の人）を丁寧に分かりやすく説明して欲しい。ボランティア活動、行事を増やして欲しい。	女性	19～29歳 (指定難病)
◇ 障がい者の健康診断の充実。例えば各事業所で出来るとか、保健センターで障がい者の日など特別な日を設けてもらえると嬉しいです。	男性	19～29歳 (療育手帳)
◇ 移動支援の自己負担がなくなり助かっています。手足が不自由な知的にも重い障がいがありますが、毎日普通に入浴ができて、週末に外出が出来てという生活はどこで受けられるのでしょうか。今は沢山のサービスと親がいますが、親がいなくなっても今の生活を送れるように考えて頂きたいです。障がいは重いのですが働きたいと思っています。重くても働けることを考えて欲しい。	女性	19～29歳 (療育手帳)
◇ タクシーやバスではない移動手段やサービスがあると助かります。とくに高速バスのりばや神栖方面へ用がある時、移動手段がなくとても不便です。タクシーは高い。	女性	19～29歳
◇ 申請主義の世の中であるので、こちらから動かない限り何も得られるものはない。実際、市町村が動くのは、事が大きくなないと動かない。アンケートのような形式的なもので何か得られるのでしょうか。まずは障害を持たれた我々に直接会いに来て収集した方がよいのではないのでしょうか。	女性	30～39歳 (療育手帳)
◇ 医師の身体障害者診断書には、身体障害者福祉法第15条第3項の意見障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に下肢4級該当する4級相当と記入されていましたが、発行された障害者手帳は下肢5級だったことです。	男性	30～39歳
◇ 養護学校卒業後、重度障害者には行き場がなく、在宅を余儀なくされた10年前に比べると、今は施設も増え選択肢が増えたことは喜ばしいことです。使わなくなった古い公的建物をお借りすることが出来たのは大変ありがたい事なのですが、なにごん仕様が古く、また耐震強度等にも不安があり、身体障害者等には使い勝手が悪く、事故等も起こっています。自由に改修等が出来るようにして欲しい事と、改修費用に補助金を出してくれると大変ありがたいと思います。行方行政区全体の情報が、もっと頻繁にやり取り出来るようになると良いと思います。	女性	30～39歳 (療育手帳)
◇ 福祉の対応が遅い。	男性	40～49歳
◇ 障がい者が働く場所がない。	男性	40～49歳
◇ 手帳給付のサイン時の個人情報の管理に不安を感じています。支援については特に災害時に不安を感じています。その他、障がい者への支援は必要以上に手厚くしなくても大丈夫です。役所を頼りにしています。福祉の充実も考えて頂けると嬉しいです。マル福の封筒の表にマル福と表示されたくないの表示を消してください。	女性	40～49歳
◇ 足が悪いため災害が起きた時、避難場所まで行くのが困難である。	女性	40～49歳

(続き)

主な意見	性別	年齢
◇ 当事者側から行政に届いた問題については様々な角度から解決の道を探して欲しいと思います。受けられる支援についても課としての対応ではなく、輪を広げて不安を取り除く対応をお願いしたいと思います。受けられる支援を知らずに問題を抱えている方々に、伝わる方法等、行政の力を発揮して欲しいと思います。当事者側もしっかり学ぶ必要性も痛感しています。	男性	40～49 歳
◇ 相談する窓口をわかりやすくしてもらいたです。パンフレットまではいかなくても、しおりのような物を市役所のわかりやすい所に置くような。	男性	40～49 歳
◇ とにかく働く場所をなんとかして！	男性	40～49 歳
◇ 好きで障害者になったわけでもない。障害者となり大人になって、またそこに重い病気にかかり障害が残り、歩く事も不便になり、やっと家のことも頑張ってやっている状態。もっと年を取るとどうということになるか不安です。	女性	50～64 歳
◇ 自身の障がい軽い方なので、障がい福祉に関する関心が薄い。	女性	50～64 歳
◇ 福祉事務所の充実。現状では狭すぎる。車イスの方が移動しづらい。福祉事務所はかがなものかと思う。	男性	50～64 歳
◇ 一人暮らし者の生活活動の確認と障害者からの連絡（異常時）をリアルタイムで対応出来るシステムがない。	男性	50～64 歳
◇ 目の障害者を世話する配偶者での自宅介護は大変なことです。身体障害者の施設はあると思うのですが、同じ障害でも目の施設は無いような気がしますがいかがでしょうか。私は目の不自由な人たちが集まって生活出来るような施設が出来ることを心から願っています。	女性	50～64 歳
◇ 潮来市は他の市町村に比べて、障がい福祉に関してあまり良い条件が無さすぎます。話を聞くと驚くほど違いがあります。市が豊かでないから仕方ないのでしょうか。	女性	50～64 歳 (指定難病)
◇ 障がい者の方々も色々あり、全ての方に満足させるのは無理です。また、甘えてばかりでも社会は成り立って行きません。行政は本当に困っている世帯を調査し、手助けして下さい。特に、子供たちに関する事項は手厚く、安心安全に日々暮していく活力を与えて下さい。潮来市民一人一人が豊かでなくても、良い居住地として感じる様に町づくりを思います。	男性	50～64 歳
◇ 事故によって障害を負った者は、その後の対応を家族の判断で行わざるを得ず、必要な情報も家族が東奔西走せざるを得ない。背負った障害と見通しに応じた情報提供や援助支援が欲しい。	男性	50～64 歳
◇ タクシー券も増やしてもらいたい。	男性	50～64 歳
◇ 障害者の為のより良い具体的な計画の策定と周知をお願いしたい。	男性	50～64 歳
◇ 問3 2については各種受給者証を市よりもらって使用していますが、市の窓口～施設等についてはこれまで、10数年利用ほぼ0であります。	男性	50～64 歳
◇ 潮来市には障がい者等級を受ける施設はあるのでしょうか？大きな病院もありますが、車での移動予約がとても大変です。以前は常南病院で受け付けていたと聞きましたが、今は等級を診査することが出来ないそうです。	女性	50～64 歳
◇ 障がいの度合いが小さいので、まだ勤務していますが、これから先一人暮らしの為、福祉にお世話になると思うと、体に気をつけて、人様に迷惑をかけないよう、又、嫁いだ娘達も遠方な為、努力してはいるが、やはり買い物これから先不安である。又、聴覚障害者の集まりを多くして文字で示す、掲示板を増やしてほしい。	女性	65～74 歳
◇ 災害時の避難の手助けが欲しいです。広報車の声が聞こえづらい。東日本の震災の時も広報車が来なかった。	女性	65～74 歳
◇ 家族、病院、役所等の対応に不満なく楽しく生活しております。	女性	65～74 歳
◇ 身体障害の方のリハビリのできる施設が出来たらよいと思っております。	女性	65～74 歳

(続き)

主な意見	性別	年齢
◇ 良い方向に少しでも前進されるように自分も含めて頑張りたい。	男性	65～74 歳
◇ スーパーの店員のサービスの悪さ。半分ぐらいの数の人達が、手助けをしないで見ている。優しさをもって接するよう指導して欲しい。	女性	65～74 歳
◇ 社会参加したくても、移動手段が確保されていない。福祉の充実も大事ですが、参加出来ない。まず、一番にコミュニティーバスなどがあるとありがたいと思います。	女性	65～74 歳
◇ 相談窓口の使いやすさと言われてもまだ相談窓口を利用した事が無いのでわからないので答えられません。回答できない欄もあります。すみません。難しいです。	男性	65～74 歳
◇ 障害者福祉サービスがよくわからなかった。障害者福祉のしおりを見てわかりました。災害対策について、福祉のしおりがあればよく理解できる。	男性	65～74 歳
◇ 今のところ健康なので意見はありません。	女性	65～74 歳
◇ 精神障がいの子がいますが、いつまでも健康でいれば良いが、先の事まではわからないので、現在かかっている病院以外でかかる時は普通にお金がかかるので、マル福制度が出来ないかなと思います。	女性	65～74 歳
◇ 問32について、まだどこで何をしているのかわからないのでよくわからない。受けてみないとわからないことかもしれません。	女性	65～74 歳
◇ 障がい5級で年齢的にも無理な面と、友人達も死亡して周りに相談する人もなく、病氣になった時どうすればいいのか心配です。	女性	65～74 歳
◇ 医療費のマル福の利用について県外でも県内と同じ様に利用出来れば良いと思います。	男性	65～74 歳
◇ 自分が障害者手帳を貰えることになって初めて市の福祉制度のお世話になり、助けられたことが沢山ありました。窓口の方々も大変優しく接していただきました。いざという時まずどこで相談したらよいのか前もってわかっていること、市ではどんなサービスがあるのかの情報を常に発信していただけたら安心できます。	女性	65～74 歳
◇ いつも福祉課の方には親切に対応して頂き、感謝しております。今後共よろしくお願い致します。	女性	65～74 歳
◇ ある施設の障害者用トイレのドアが壊れていたものでいつなりますか？担当部署に電話をしたら調べて連絡しますと言っていましたが、電話番号、名前も聞いておいて、連絡来ませんでした。	女性	65～74 歳
◇ 何年前かに市の各区老人体操教室に参加しました。ところが逆に足と腰が余計に悪くなり寝込んでしまいました。ですから、年齢と障がい者の度合いに合わせて体操教室を行ってください。知人2人も具合が悪くなり寝込んでしまいました。	女性	65～74 歳
◇ 観光地であるのに、障がい者は、観光を楽しめる環境ではない。	女性	75 歳以上
◇ 千葉医大病院の紹介で、現在、匝瑳市の病院に入院、治療中です。居住区域内に病院があれば指導いただきたい。	女性	75 歳以上
◇ 父は等級4から、等級2になりましたが、それでも、手足が不自由な為、家族の介護が大変です。それぞれの等級の内容の見直しと、サービスを考え直して欲しいと思っています。	男性	75 歳以上
◇ 障害者が参加する行事などを過程に企画する。就業活動、就業分野の拡大。移動手段の拡大、補助。段差の解消など障害者にやさしい町づくり。	男性	75 歳以上
◇ いつも色々心遣いに感謝。福祉に関する意見というか、市役所の窓口の対応にとても不満を感じております。何事もわからないから聞くのですが、私にとっては不満です。主人は視覚障害があるのですが、色々な面で嫌な思いをさせられる時があります。好きでこの様な状態になる人は一人としていないと思います。	男性	75 歳以上
◇ 89才ですが去年7月から障がい者になりましたので、いろいろわかりません。	女性	75 歳以上
◇ 恥ずかしいので、健康のフリをしている時がある。もっと開けた受け皿が欲しい。	女性	75 歳以上
◇ 現在のところ不安はありませんが、もし一人になった時のことを思うと、心配です。	女性	75 歳以上

(続き)

主な意見	性別	年齢
◇ 潮来市は鹿島市より障害者施設が遅れている。①リハビリ体制（スタッフ）が未完。②デイケアは認知症者と一緒にされ生活出来ない（身体に障害があっても小学生ではない。もっと何が障害かを知って体制を取るべき）。私は長い間設計の仕事をして今でも元の仲間にアドバイスしているが、潮来市のある施設に入って知的障害者と一緒にされ非常に困った。	男性	75 歳以上
◇ 潮来市は財政が少ない。人口増の取り組みが必要。豊かな財源があってはじめて、障害者への対応も可能になると考えます。頑張ってください。	男性	75 歳以上
◇ 神栖市、鹿嶋市等と比較すると、行政面で遅れているように思われる。税収面での差の違いであると思いますか。交通手段のない75歳以上の方の交通切符の配布等。	男性	75 歳以上
◇ 私は今80才になります。その間体中のあちらこちらと9回にわたって手術をして頂き、現在に至っております。手術は皆成功したおかげと感謝しております。多少の不自由さはあっても、幸せだと思えます。出来ましたら外出する時の車の使用とかできたらと思えます。	女性	75 歳以上
◇ 福祉優先の施策で有難いものです。	男性	75 歳以上
◇ 障害があり、あるいは老人となり、日常生活が不自由となった場合、たとえ家族がいたとしても日中は完全に（仕事の為）一人暮らしの状態です。それぞれ個々の自宅へ介護者が行って、トイレ、食事など完全に介護するのは時間的にも人員的にも無理です。明るく楽しい入所型の介護施設の充実を望みます。老後はそこに行くんだと思える場所が完備されてこそ、将来不安なく生活していける。	女性	75 歳以上
◇ 要望としますと、本人が胸に携帯みたいに掛けてボタンを押すと福祉の窓口又は救急車に連絡できるような設備が欲しい。	女性	75 歳以上
◇ 現在は老々介護で、何とかやっていますが、もし近い将来一人暮らしになったら私の病気が進行すると身体が動かなくなる病気なので（難病）とても不安です。安心して暮らせるような体制があれば良いのですが。	女性	75 歳以上
◇ 年金が少ないため半分程生活保護を受けている。有難い事です。でも病院に行くのは保護金のなかから出さなくてはならない（タクシー代）。足腰が悪い為、回遊車があると自分で買い物にも行ける。（食費削ってとても苦しい）これは私のわがままか？	女性	75 歳以上
◇ タクシーのサービス券。初乗り料金にして欲しい。	男性	75 歳以上
◇ 障がい者になって3カ月目、障がい者に対する情報提供がない。もっと情報が欲しい。	女性	75 歳以上
◇ 行事やイベントなど増やし、一般の人に理解してもらうことが大事。	男性	75 歳以上
◇ 障がい認定を受けて、まだ日も早くまだ感じることは少ない。この先はなるべく不自由なく生活をさせてあげたいと思えます。	女性	75 歳以上
◇ 車に貼る障がい者ステッカーを本当に障がいを持っている者にしか配布出来ない様な仕組みにして欲しい。100均などで手に入るとかありえない。スーパーの障がい者スペースの駐車場に健常者が停めてしまうのも、ステッカーが容易に手に入ってしまうから。そのような活動にも目を向けて頂きたいです。	女性	75 歳以上
◇ 最近聴力が失われるのが不安です。一人暮らしなので夜には補聴器を外すので何も聞こえないから、ちょっと心配です。（外す理由、頭が疲れるから。休みたい為）	女性	75 歳以上
◇ 私は現在障害の身で市役所や家族のお世話になっております。年齢的にも長寿ですが、わずかながら納税も納付しており、又金銭の支援も受けておりません。障害と言えば眼の方では眼鏡コンタクト、耳の方でも補聴器等障害の箇所にかかなりの費用を自費で支払いをして負担もかなりのもので、市の方でもご支援をよろしくお願い致します。	男性	75 歳以上

(続き)

主な意見	性別	年齢
◇ 私は母が知的障がい、私と親子関係になっておらず、現在に至っても父親も不明。戸籍では私生児として扱われてきました。偏見と差別を乗り越え丈夫な体と心を得るに至りました。私の人生は何事も自分で考え失敗して覚えていく、そんな苦勞を乗り越えてきたおかげで、幸福な家庭を賜りました。素晴らしい国そして社会、やさしい皆様方に感謝申し上げます。	男性	75 歳以上
◇ 私は障害3級ですが、どのような事が福祉に受けられるのか案内書のような物があればと思う。	男性	75 歳以上
◇ 私は自営業をしています。今は体調を悪くして仕事は出来ません。一人暮らしですが今の収入では生活費は毎月足りません。子供に助けてもらっていますが、長くは援助受けられませんので。その件、年金でも多くして欲しいです。	男性	75 歳以上

【療育手帳所持者】

主な意見	性別	年齢
◇ 相談しやすさがあまりない。こっちから聞かなければ、情報を提供してくれなかったのですごく戸惑ったし困った。(療育や手帳の申請など)聞いても、まだ年齢が小さいから「やることはないです」と言われ、すごくショックで見離された感じがした。結局、同じ障害を持つ親達での情報交換の方が色々わかってよかった。	男性	0～6 歳
◇ 行きたい施設には、同じクラスでいじめっ子が入所しているので、最近は行きたがらなくて困っている。その施設の職員の態度が悪い。	女性	7～18 歳
◇ 障がい児(あずかり)施設の充実が必要であると思う。支援学校の設備なども改善が必要と思われる。バリアフリーや身障トイレの設置対応も要であると思う。鹿行地区の入所施設の入所施設の入所待ちが長く、家族の対応も大変と思われる。障がいに対する病院も近郊になく対応できる医師等の確保も検討して頂きたいと思います。	男性	7～18 歳 (児童)
◇ 知的発達障害のある自閉症者の母です。幼少期、学童期、成人期等々、その時期その時期それぞれの困難があり、今に至っておりますが、親が一番辛かったのは、障害が発覚した時期でした。相談するにもどこに行けばよいのかわからず、ようやくたどり着いた所では何の返答ももらえず、解決にはなりません。本当に雲を掴むような日々でした。医療機関も遠く、また、学校卒業後は行き先もありませんでした。とにかく何も「ない」時期の子育てでした。年月も過ぎ今は変わってきているのではないかと思います。選択肢のある環境を是非作って頂きたいと思っております。よろしくお願い致します。	女性	19～29 歳
◇ もっと入所施設(短期)を増やして欲しい。事業所(作業所)やデイケアの延長時間を長くして欲しい。	男性	19～29 歳 (児童)
◇ 少しずつ周りの理解も得られるようになっていくし、住みやすく暮らしやすくなってきていると思います。障がい者や高齢者が暮らしやすい市はみんなにとって暮らしやすい市だと思います。	男性	19～29 歳
◇ アンケートを書いてもそれが即反映され開示されているのか疑問である。	男性	19～29 歳 (児童)
◇ いつも感じることは一般の方と障がいの方との考え方は違ってしまうと思います。また、差別も感じられます。潮来市がもっと障害のある方が住みやすい市になることを望みます。	女性	19～29 歳
◇ 潮来市の障がい福祉への取り組みがわかりませんので記入できませんでした。地元で生活が出来る事が一番だと思います。	男性	19～29 歳
◇ 相談するだけ時間の無駄です。今後利用してもらいたいのならもっといろんな情報を教えて欲しいです。無駄遣いは禁止ですよ。人が住んでいない家を貸して下さい。空き家のままだと家がもったいないです。人に住んでもらうと家も喜ぶですよ。	女性	30～39 歳 (精神)

(続き)

主な意見	性別	年齢
◇ 発達障がいの入所希望が少ない。料金が安くすむ所を願いたい。発達障がいや、療育手帳があるのに、役場の人達に聞こえないように壁や相談室があるのに使えず。	女性	30～39 歳
◇ 以前神栖、鹿島に住んでいて、発達や体の不自由な子に対する市のサービスや施設に優れていたのが、潮来は少し物足りなさを感じました。これから小学校へ入学して周りの子ども達や先生の理解があるかも気になります。障害児をもつ親子が集まり月に1回程のペースでレクリエーションや簡単な調理実習を行う活動が出来たら嬉しいです。	女性	30～39 歳
◇ 学齢期を特別支援校で送り交流事業もない時代であったため「市が」という問いに、うまく答えられませんでした。知的障がい者は、本人が答えていない場合、強く自己主張できません。何かして欲しい、配慮して欲しいという要求を、親、支援者の努力不足のように感じてしまいがちだからです。こうしたアンケートできちんと訴えられない点はこちらの反省点ではありますが、受け手にも「訴えられないから無いのではない…」という意識も持っていただけると幸いです。市には公平な立場で相談情報提供をしていただけることを期待します。	女性	50～64 歳
◇ 「障害」と「障がい」の表記について、まずは形から障がいにして頂けると良いと思います。潮来市のワークスなど障害となっています。身近な所から変えていって欲しいです。よろしくお願い致します。	女性	50～64 歳
◇ 知的障がい者に問⑳㉑㉒は家族でも答え方は難しい。障害者がどのような状況で生活をしているのか、まず知ってもらいたい。	男性	65～74 歳
◇ 障害を持った者と健常者の交流の場が多いと周囲の理解する人の輪が大きくなると思います。	女性	65～74 歳

【精神障害者保健福祉手帳所持者】

主な意見	性別	年齢
◇ 精神障害者2級の手帳を持っているのに、なぜ障害年金の申請が却下されるのか。差別ではないのか。また、身体障害者手帳保持者なら JR の料金が半額になるのに精神障害者手帳ではなぜ割引適応にならないのか。これも大きな差別だと考える。手帳保持＝障害者年金 100%給付、JR 運賃半額、となるようにして欲しいと切に願う。健常者でも生きづらい世の中、障害者はもっともっと生きづらいのです。	女性	30～39 歳
◇ アンケートの内容が障害者に対して、あまり理解できていないなと感じました。(もっと求めていることがあります。)精神障害者ですが、仕事がきっかけでした。働く年齢ですが、働きづらい世の中です。健康診断の様な感じで、たまに気軽にカウンセリングなどを受けられたら良いです。潮来市で生まれ育ったので、地元を豊かにしたいのに体調が悪く、あまり働けないことが辛く、申し訳ない気持ちでいっぱいです。	女性	30～39 歳
◇ 以前よりは理解が深まったと思いますが、まだ周りの目が気になります。こちらが敏感になりすぎているのかもしれません。	男性	30～39 歳
◇ バスが通っていないため、駅までタクシーを使うしかない。今は親に送ってってもらっているが、将来はどうしようもない。障害年金ではやりくりが出来なくなると思う。何とかしてほしい。	女性	40～49 歳 (指定難病)
◇ 障がいがある事を隠して働かなければならない現実がある。特に、精神障がいは外見では判断できない為。	女性	40～49 歳
◇ 身障者みたいに精神障がい者も色々なサービスや割引があってもいいかなと思います。	男性	40～49 歳
◇ 福祉課に相談に行くと、相談スペースが出入り口のそばにあったり、隣の人との距離が接近していたりして、思ったより職員の方々に相談できない。パーテーションで区切られたスペースを確保して欲しい。また、潮来の交通事情が悪いので、バス、タクシーなどの割引もしくは無料化を図って欲しい。	女性	40～49 歳

(続き)

主な意見	性別	年齢
◇ 市役所の福祉課の障害者対策に大変満足しております。今後より一層の障害者の対策お願い致します。	男性	50～64 歳
◇ 障害者がスポーツしているのをあまり見ない。優しく保護するだけではいけない。人それぞれを、自立させる気なのか面倒を見続ける気なのか見極め手助けしてもらいたい。	女性	50～64 歳 (指定難病)
◇ ヘルスランドさくらで障がい者の記入をしていると、見た人がタダでいいねとか、どうしたら障害者になれるのかと聞いてきたり、それを皆に言ったりして、他にヘルスランドさくらの人が他人にプライバシーをもらしたり。潮来の方はデリカシーがないと思いました。私も気をつけていますが、スタッフの教育をしてほしいです。	女性	50～64 歳
◇ 私は身寄りのない一人暮らしです。身体が不自由になったらどのようにして生きて行ったらいいのでしょうか？お金とか足りるのでしょうか？お薬はずっと飲むのでしょうか？今の住まいにずっといられるのでしょうか？歩けなくなったらどう生きて行ったらいいのでしょうか？今は若いけど先の事が大変心配です。今でもお金が足りないと思っています。いいお友達が欲しいと思います。	女性	65～74 歳
◇ 病院等の移動手段が出来ないこと。	女性	65～74 歳
◇ 障がい福祉に関するこのアンケートがどのような役割をして下さるのか分からないのですが、私の娘は心の障がいをもっており、仕事が出来ません。潮来の福祉課に何度も足を運び助けを求めたが、話を全く聞いてくれません。生活はとても厳しく、それでも頑張ってここまで来ましたが、もっともっとよく話を聞いて頂ける課を作して下さい。家庭の事情をよく知って欲しいです。障害年金を下さい。	女性	不詳

【一般特定疾患医療受給者証所持者】

主な意見	性別	年齢
◇ 障害者、難病の方の情報（個人情報）などは各町内の民生委員の方、又は委員長などに知らされているのですか？「あそこの家の子供に障害がある」とか…絶対に知らされてほしくないで…	女性	40～49 歳
◇ 特定難病手帳を持っている者ですが、お金がないから受診だけで、高い薬は…と諦めるといった受診ほとんどでしたが、今回上限を設けてしまうのは「？」と思います。好きで一般企業で働いているのではありません。暮らしていく為です。高いお金（薬）を我慢して生活している人間もいるのです。	女性	40～49 歳
◇ 移動手段（難病により免許返納済）確保。自由に使いたいので他市のようにタクシー券の発行などを考えて欲しい。	女性	50～64 歳
◇ 指定難病特定医療費の増額をお願いします。他市より潮来市は低い。	男性	50～64 歳
◇ 障がい福祉等に関する情報を良いタイミングでいただけるようにお願いします。	男性	50～64 歳
◇ 障がい福祉の取り組みについての満足度については、全く知識が無いので、実際の状況とは違うと思う。ただ、高齢になり、車の運転が出来なくなりつつあるので、移動手段の確保に方法がもっと利用しやすい手助けが欲しい。	女性	65～74 歳
◇ 指定難病を持つ人として更新の手続きがきていますが、書類を揃えるのが大変です。期間は長いですが、一つずつゆっくり、と思うのですがなかなか進まなくて誰か助けてと言いたい時もあります。とにかく困るのは書類集めです。	女性	75 歳以上
◇ あやめ号についてですが、ステップが高くて乗車出来ず、利用できないというお年寄りがいました。障がいをもった方や、高齢者の方が利用しやすいようにしていただきたいです。	不詳	不詳

潮来市
障がい福祉に関するアンケート
結果報告書

平成 29 年 9 月発行

〔発 行〕 潮来市
〔編 集〕 潮来市 市民福祉部 社会福祉課
Tel 0299 (63) 1111 (代) / Fax 0299 (80) 1410
〔調査・分析〕 ㈱まち研
